

令和 6 年度事務事業評価調書
(1 次評価調書)

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	団体等から提案される事業計画等について、町の活性化を図り広く町民に還元され波及効果もある事業を決定しており妥当。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	地域問題の解決、地域活性化のための事業であり、新規事業は審査において認定しており有効性が高いものを選別できている。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	補助金が減額となる中でも継続してきており、町の活性化を図る効果は図られているが、事業後の検証が必要な場合もある。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		対象となる事業について周知を図り、各種団体が制度に則した事業であるか判断しやすいような情報提供をし、事業の採択を図る。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		制度の周知を図り、町の活性化に資する事業を共創により実施するため予算額を維持。	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		応募者が制度に則した事業であるかの判断ができるよう十分な制度の説明、周知を図り、制度の目的の達成、事業効果が得られるよう、制度活用を広めていく。			

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	地域コミュニティの核となる自治会を支援することは妥当。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	地域コミュニティに関する支援であるため、有効性は高い。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	自治会での事業については対象者が身近であり波及効果も高い。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		自治会活動の継続のため引き続き各自治会への補助金を交付。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		自治会活動の維持・継続のため予算額を維持	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点	地区連絡協議会の活動推進のため、自治会連合会として実施する協力体制の構築等の支援を行う。単位自治会の活動に不可欠な会員の加入促進のため、役場窓口での自治会加入の支援、ホームページを利用し、活動内容の周知を図る。				

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	ボランティア参加人数	目標	人	200	250	270	275	280
		実績	人	200	233	231		
		達成率	%	100	93.2	85.6		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	今後の地域活動の支え手となるボランティアを発掘・育成するためにも必要である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	能力・年齢を問わずボランティア登録が可能であり、ポイント制度導入により達成感が出ることでモチベーションも維持される。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	高額な景品でないが、登録者増との成果が出ており、経費は適正である。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		現在、地域の”ささえ手”となるボランティア・社会活動に参加し、ポイントをためると景品と交換することができるボランティアポイント事業（美幌町社会福祉協議会が実施）の支援を行っている。					現状維持	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 今後のボランティア人材の発掘と育成を推進するためにも、今後も継続して予算措置を行う必要がある。				予算反映額 (概 算)		
今後の改善点		ボランティア人材を育成するなかで、複数の方がボランティア団体に所属している実態が見受けられることから今後、多くのボランティア人材を確保できるよう事業を見直していく必要がある。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標 1	びほろ未来ミーティングの開催回数	目標	回	1	1	1	1	1
		実績	回	0	4	3		
		達成率	%	0	400	300		
指標 2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標 3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	町として進める諸施策の計画立案にあたって、未来を担う若者の声を聴き、反映させることが重要であるため妥当。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	対象を若者として意見を汲み上げることは町の将来像を考えるうえで有効性は高い。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	費用がかかっていないため、効率性は高い。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		事業開催回数の増に向け、広報やホームページ掲載などの周知活動を行う。						
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減					現状維持	
これまでと同様に予算をかけない方法で事業を取り進めていく。				予算反映額 (概 算)	0千円			
今後の改善点		若者世代が開催しやすいよう、土日の開催についても検討を行う。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	美幌駐屯部隊の充実強化のため、陳情要望活動を実施する必要があることから、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	美幌駐屯部隊の充実強化のため、防衛省及び関係国会議員に対して陳情要望活動を実施する必要があることから、適切である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	美幌駐屯部隊の充実強化のため、陳情要望活動に必要な経費であることから、適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 第5旅団の機動旅団への改編により、美幌駐屯部隊が対象となったことから、改編後の充足に向けて積極的な陳情要望活動を実施する。			評価結果 現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 即応機動連隊への改編後の充足に向けて、複数回陳情を実施するなど計画的な陳情要望活動を実施する。			
		予算反映額 (概 算)	0千円		
今後の改善点		即応機動連隊への改編後の装備及び隊員増員に向けた陳情要望活動の検討			

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	就職希望かつ美幌居住者で美幌の企業への就職者数	目標	人	5	5	5	5	5
		実績	人	8	6	9		
		達成率	%	160	120	180		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	地元に定住している隊員は地元で働けることを求めている、次世代の担い手としての人材でもあるため、妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	地元就労のためには、就労情報等の提供が必要であり、適切である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	就労後においては、即戦力として活躍できる退職者も多く、効率的である。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		美幌駐屯地援護センターとの情報交換を密にするとともに適材適所に配置できる退職自衛官をPRする。						現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減				0千円		
		現状維持のまま実施する。					予算反映額 (概 算)	
今後の改善点		救護センター及び会議所との情報交換を実施し、地元退職者の希望に沿う形で進めていく。						

令和6年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		課・グループ名		町民活動課広報相談グループ	
情報発信推進事業		評価者名		町民生活部長 関 弘法	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		款	XX
	施策(大)	01 町民との協働によるまちづくり		項	XX
	施策(中)	13 町の知名度向上に向けた情報発信		目	XX
	施策(小)	00		大事業	XX
事業期間		4年度 令和5年度～令和8年度		中事業	00
要求区分		継続 町長重点政策 ○			
根拠法令等				経費区分	政策的経費
事業概要		町のできごと等の動画を制作し、YouTubeを使用して情報発信を行う。			
事業目的		情報発信を積極的に行い、美幌町の知名度を向上させる。			
事業の対象		町民及び町外者			
実施結果・現状と課題	【実施結果】	7本の動画を制作し、情報発信を行った。			
	【現状と課題】	現在は町のイベント等の情報発信にとどまっており、今後は町の政策や考え方等についても情報発信を強化していく必要がある。			
事業進捗度		2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和04年度決算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和06年度決算	令和07年度予算	令和08年度予算
事業費 (千円)	0	0	0	0	0	0
国支出金	-	-	0	0	0	0
道支出金	-	-	0	0	0	0
地方債	-	-	0	0	0	0
その他	-	-	0	0	0	0
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	0	0	0	0	0	0

(見込値)

3. 評価

指標名		単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	動画の作成	目標	本		24	24	
		実績	本		22	7	
		達成率	%		91.67	29.17	
指標2		目標					
		実績					
		達成率	%				
指標3		目標					
		実績					
		達成率	%				
項目		評価の視点		評価	理由		
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	情報発信は町が自ら行うものであり、妥当。		
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	町の情報を町内外へ向けて発信することは、町の知名度向上にとって有効性の高い手段である。		
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	費用がかかっていないため、効率性は高い。		
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止				評価結果	
		欠員となっていた職員が補充されたため、以前と同様に動画制作を行うほかYouTubeチャンネルの認知度向上のために広報掲載などの周知活動を積極的に行う。					
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持		
これまで同様に予算をかけずに発信を行っていく。			予算反映額 (概 算)	0千円			
今後の改善点		イベントのレポートだけでなく、事前周知の手段としての活用を検討する。					

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	近年のデジタル化の急速な進展等に対応して業務改善へ繋げるため、職員のICT知識の向上は必要である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	研修受講者は着実に育成されているものの、所属課への研修内容の共有やフィードバックが不十分であり、組織全体への波及効果は低い。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	DXアドバイザー20名を育成する事業として、費用対効果は高いと判断できる。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		DXアドバイザーの育成は2か年計画であり、次年度はより専門的な知識を習得するため研修内容の難易度を上げ、人材育成を着実に推進する。			
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			拡充
		2年目の研修はより専門的な知識を習得する段階であり、研修内容の難易度を上げるため、必要な経費を拡充する。	予算反映額 (概 算)	838千円	
今後の改善点		研修で学んだ知識の組織全体への波及			

令和6年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		ふるさと寄附金事業		課・グループ名	政策推進課政策統計グループ	
				評価者名	総務部長 那須 清二	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	02 持続可能な行財政システムの確立			項	01 総務管理費
	施策(中)	05 健全な財政運営の推進			目	05 企画費
	施策(小)	02 財政基盤の強化と効率的な財政運営			大事業	01 政策推進事業
事業期間		終期末定	平成20年度～	中事業	05	ふるさと寄附金事業
要求区分		継続町長重点政策○				
根拠法令等		「ふるさとを思う ころろが届く 美幌町ふるさと寄附金」取扱要綱			経費区分	政策的経費
事業概要		ふるさと納税制度を活用した事業推進策として、返礼品の充実及び供給体制の確立による寄附金額の向上及び取扱事業者の売上向上、更には寄付金を活用した事業（寄附金充当事業）の丁寧な説明と内容充実によって、寄附者に対して、返礼品から寄附金充当事業まで広く町の魅力をPRし、更なる美幌町のファンづくり拡大と関係人口創出を図る。				
事業目的		ふるさと寄附金の増収と寄附金活用事業充実による特色ある魅力的なまちづくり				
事業の対象		町外者（ふるさと寄附金対象者）				
実施結果		【実施結果】 効果的な広告戦略に取り組んだことにより寄附金額・寄付件数ともに増加傾向にある。				
現状と課題		【現状と課題】 寄附実績データ等の分析による効果的なプロモーションの実施、事務処理の効率化、募集経費の見直し及び安定的な体制づくりと確立（行政、中間事業者、町内事業者の更なる連携体制の構築）				
事業進捗度		2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容	

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和04年度決算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和06年度決算	令和07年度予算	令和08年度予算
事業費 (千円)	416,820	423,229	500,196	486,547	550,871	600,000
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	416,820	423,229	500,196	486,547	550,871	600,000
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	416,820	423,229	500,196	486,547	550,871	600,000

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標 1	寄付件数	目標	件	15,000	40,000	40,000	44,000	50,000
		実績	件	40,034	35,384	39,392		
		達成率	%	266.89	88.46	98.48		
指標 2	寄附金額	目標	千円	150,000	400,000	500,000	550,000	600,000
		実績	千円	408,249	423,167	486,269		
		達成率	%	272.17	105.79	97.25		
指標 3	寄附金活用事業の庁内募集枠	目標	千円	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
		実績	千円	3,680	1,600	1,600		
		達成率	%	36.8	16	16		
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	町の財源確保対策及び町のPRを行う上からも妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	ポータルサイト及び特設サイトを核とした各種PRや返礼品の充実により、寄附件数及び寄附額が増加傾向にあり、有効性は高い。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	寄附受付から謝礼品の発送までを一括して外部委託し、効率的な事務を実施していることから、効率性は高い。			
次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		民間事業者との連携推進により、寄付状況に基づく傾向分析を強化し、SNSや広告等による効果的な情報発信による本町特産品の認知度向上や返礼品の更なる充実を図り、リピーターを含んだ寄附者確保に取り組むことで更なる事業推進を図る。					拡充	
	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減							
	予算	SNS、広告等による情報発信や返礼品の充実による寄附者数及び寄付額の増加を見込み、返礼品等の経費増に対応するため、予算を拡充する。				予算反映額 (概 算)		
今後の改善点		返礼品毎の寄付目標及び実績値を明確化し、返礼品取扱事業者と密に連携して返礼品の在庫を確保すること。ポータルサイト及び特設サイトを通じた更なる情報発信及び民間事業者（謝礼品取扱事業者及び中間事業者）と						

令和6年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		課・グループ名		社会福祉課・民生障がい福祉グループ	
広域連携事業		評価者名		福祉部長 吉田 善一	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		款	XX
	施策(大)	02 持続可能な行財政システムの確立		項	XX
	施策(中)	09 広域行政の推進		目	XX
	施策(小)	01 広域連携事務事業の更なる推進		大事業	XX
	事業期間	終期未定 令和5年度～令和8年度		中事業	00
要求区分		新規		町長重点政策 ○	
根拠法令等		障害者総合支援法		経費区分	政策的経費
事業概要		障がいのある方の生活を地域全体で支えるサービス提供体制を構築するため、基幹相談センターを定住自立圏（1市4町）の枠組みにより設置し、当事者や家族、障がい者施設や自治体など、関係機関から日常生活のさまざまな相談を受付している。 また、グループホームの空き室状況の把握や緊急時の短期入所の調整、人材の育成を行っている。 令和6年度末に基幹相談センターを主とした1市4町の協議会を設立したため、今後も更なる関係機関との連携が行			
事業目的		障がい者福祉分野における、広域での連携や障がい福祉全般の支援について検討を行う。			
事業の対象		障がい者等			
実施結果・現状と課題		【実施結果】 基幹相談センターを定住自立圏（1市4町）の枠組みにより設置し、障がいのある方を地域全体で支えるため、地域生活支援拠点の機能を面的に整備している。また、1市4町協議会を設立している。 【現状と課題】 町内の事業所や施設だけでは、障がい者への支援が充足されていないため、広域で設置している基幹相談センターとの連携が必要と考える。			
事業進捗度		2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和04年度決算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和06年度決算	令和07年度予算	令和08年度予算
事業費 (千円)	0	0	0	0	0	0
国支出金	-	-	0	-	0	-
道支出金	-	-	0	-	0	-
地方債	-	-	0	-	0	-
その他	-	-	0	-	0	-
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	0	0	0	0	0	0

(見込値)

3. 評価

指標名		単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	基幹相談支援センター数	目標	ヶ所	2	2	2	2
		実績	ヶ所	2	2	2	
		達成率	%	100	100	100	
指標2		目標					
		実績					
		達成率	%				
指標3		目標					
		実績					
		達成率	%				
項目		評価の視点		評価	理由		
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	今後の障がい福祉全般支援の検討を行うためにも必要である。		
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	相談などを通じ、必要なサービス等へつなげているため、有効性及び効率性がある。		
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	相談などを通じ、必要なサービス等へつなげているため、有効性及び効率性がある。		
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果
		次年度も引き続き、障がい福祉全般支援の検討を行っていく。					
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減					現状維持
今後の大枠の考えが確定した段階で予算計上を行っていく。			予算反映額 (概 算)	0千円			
今後の改善点		今後も基幹相談センターを広域(定住自立圏の枠組み)で運営しながら、支援内容を拡充していく必要がある。					

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	定住自立圏協定に基づく連携事務	目標	件	1	1	1	1	1
		実績	件	1	1	1		
		達成率	%	100	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	広域連携による効率的・効果的な行政運営は、持続可能な行政運営のため実施すべきであることから妥当			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	上記同様、関係自治体で事業評価をしながら適切な手段として実施するため、実現すれば有効性は高い。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	上記同様、検討する時間は要するが実現した場合は、効率性も含めて検討しているため、高い。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		管内及び管外の自治体との広域連携を継続する。						
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減					現状維持	
新規の取組が無いことから予算についても現状維持。					予算反映額 (概 算)	0千円		
今後の改善点		関係自治体と意見交換を通じた広域連携事業の方向性検討						

令和6年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		課・グループ名	社会教育課社会教育グループ	
広域連携事業		評価者名	教育部長 中尾 亘	
総合計画	基本目標	予算科目	款	10 教育費
	施策(大)		項	04 社会教育費
	施策(中)		目	02 社会教育振興費
	施策(小)		大事業	01 社会教育団体育成事業
	01 広域連携事務事業の更なる推進		中事業	02 広域連携事業
事業期間		終期未定 令和6年度～		
要求区分		継続 町長重点政策 ○		
根拠法令等			経費区分	政策的経費
事業概要		北見地区1市4町（北見市、置戸町、訓子府町、津別町、美幌町）で組織する「北見地区広域社会教育推進協議会」への負担金支出、および研究調査事業への職員の参画		
事業目的		北見地区1市4町の広域における持続可能な社会教育行政推進のため、共通する諸問題解決に向けた研究調査や職員の力量形成につながる取組への参画を目的とする。		
事業の対象		北見地区1市4町教育委員会社会教育・体育担当職員		
実施結果・現状と課題		【実施結果】 北見地区広域社会教育推進協議会社会教育研究委員会にて北見地区1市4町のこれまでの事業をまとめた実勢記録集の作成に着手し、各市町の事例をまとめ各市町の事業等の交流を図るとともに、事業効果について振り返り職員のスキ		
事業進捗度		【現状と課題】 北見地区広域社会教育推進協議会は昭和49年度に設立され、現在まで構成自治体の変更が（市町村合併を除き）なく継続して組織活動が行われている。		
2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況		進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和04年度決算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和06年度決算	令和07年度予算	令和08年度予算
事業費 (千円)	0	0	30	30	30	30
国支出金	-	-	0	0	0	0
道支出金	-	-	0	0	0	0
地方債	-	-	0	0	0	0
その他	-	-	0	0	0	0
一般財源	0	0	30	30	30	30
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	0	0	30	30	30	30

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	社会教育・社会体育各研究委員会の実施回数	目標	回	11	13	20	20	10
		実績	回	11	13	11		
		達成率	%	100	100	55		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	北見地区1市4町の実践事例集の作成は成果物として活用が見込まれ、作成に係る事務作業においてもスキルアップが見込めるため			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	数値的には半減しているが、今年度は社会教育・体育で合同開催しているためであり妥当である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	来年度の成果物作成のための費用として活用されるため妥当である。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		現状維持のまま実施することが適当である。						現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減				予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		実践事例集活用のための周知活動及び使い方についても整備する必要がある、作成に係る実施回数の見直しが必要。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標 1	高校生による友好姉妹都市間の交流	目標	人	2	2	4	4	4
		実績	人	0	2	4		
		達成率	%	0	100	100		
指標 2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標 3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	人的交流として高校生短期交換留学が実績を重ねており、事業として妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	高校生短期留学については、将来のまちづくりに資する人材育成という点で有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	高校生短期交換留学については、負担額は適正である。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		美幌高校生及び町外高校へ通学する生徒を対象として高校生短期交換留学事業を実施する。					現状維持	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減						
		高校生短期留学として美幌高校生2名、町外高校へ通学する生徒2名の計4名を派遣するため予算額を維持。				予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		高校生短期留学事業の継続実施を推進。短期留学以外のインターネット等を利用した交流方法についても検討。						

令和6年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		移住定住促進事業		課・グループ名	政策推進課政策統計グループ	
				評価者名	総務部長 那須 清二	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	03 国際・国内交流の推進			項	01 総務管理費
	施策(中)	03 移住・定住の推進			目	05 企画費
	施策(小)	01 移住・定住受け入れ体制の推進			大事業	01 政策推進事業
					中事業	06 移住定住促進事業
事業期間		終期末定				
要求区分		継続		町長重点政策 ○		
根拠法令等				経費区分		政策的経費
事業概要		特設サイトをはじめとしたプロモーション、移住相談拠点施設「KITEN」及び移住体験住宅の利用を通じた生活体験により、移住相談から生活体験、完全移住へと段階的な取組を実施する。また、KITENを活用したワーケーションやサテライトオフィス利用を通じた関係人口・協働人口の創出を図る。				
事業目的		移住相談・体験移住を通じた移住者の増加 関係人口・協働人口の創出・拡大				
事業の対象		移住に関心があるまたは、検討されている方				
実施結果・現状と課題		【実施結果】 移住相談拠点施設「KITEN」の開設後、利用者数は順調に推移しており、道外の利用者も着実に増えている。 【現状と課題】 移住検討者の意向度に応じた移住施策の検討や民間事業者と一体となった移住希望者への支援の推進、企業の施設利用促進に向けたプロモーションの継続				
事業進捗度		2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容	

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和04年度決算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和06年度決算	令和07年度予算	令和08年度予算
事業費 (千円)	120,515	25,197	28,657	24,255	30,427	30,427
国支出金	76,394	0	0	0	0	0
道支出金	5,000	1,100	2,700	900	2,751	2,751
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	22,441	8,535	4,500	4,769	2,501	2,501
一般財源	16,680	15,562	21,457	18,586	25,175	25,175
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	120,515	25,197	28,657	24,255	30,427	30,427

(見込値)

3. 評価

指標名		単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標 1	移住相談件数	目標	70	70	100	100	100
		実績	93	151	146		
		達成率	132.86	215.71	146		
指標 2	移住体験者	目標	10	10	10	10	10
		実績	16	15	14		
		達成率	160	150	140		
指標 3	移住相談窓口を通じた移住者	目標	3	5	5	5	5
		実績	8	4	2		
		達成率	266.67	80	40		
項目		評価の視点		評価	理由		
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	人口減少対策の観点から妥当。		
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	完全移住いただくための手段としては、段階的に移住相談・体験移住と設定することが手段として適切であり、高い。		
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		検討	財政支援も現在は豊富にあり、ある程度の税投資は認められるが、完全移住者数だけで判断した場合の効率性は検討必要あり。		
次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果
		当町の強みを活かした2地域居住の推進と、移住検討者の移住意向度に応じた移住施策の実施を図る。また、移住相談拠点施設の事業について、民間事業者との協働による推進を図る。					拡充
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減					
		民間事業者と協働による移住相談体制の構築、移住相談拠点施設の運営に加え、関係人口の創出に取り組む。			予算反映額 (概 算)	1,770千円	
今後の改善点		民間事業者と連携した移住相談体制の構築及び移住検討者等に対する情報発信の在り方					

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	ふるさと会活動参加者数	目標	人	150	150	150	150	150
		実績	人	0	135	124		
		達成率	%	0	90	82		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	ふるさと会の総会・懇親会が年に1度開催され、美幌町と継続的なつながりを持つ機会があるため、妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	「ふるさと応援隊」のような取組で、地域を限定せず、全国から若年層など世代を越えて想いを持つ者とながる取組が必要。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	総会・懇親会の開催時に、地元の品、ふるさと納税のお知らせ等を配布し、一定程度の費用対効果があるため、適正である。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		首都圏や札幌圏で開催する美幌町関連イベント当の協力や案内、美幌町との継続的な関わり（参加機会）を提供することで、現在の関係性の継続、美幌町への関心・理解度の深化を図り、新規会員については、広報やHP等で継続的に周知を図り、会員募集に努める。						現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状維持のまま実施することが適当である。				予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		美幌町の関係人口創出のため、ふるさと会との関係性を継続し、関係する企業との連携など、その他の手段も含めて、取り進める必要がある。						

令和6年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		課・グループ名	町民活動課町民活動グループ
高齢者交通安全推進事業		評価者名	町民生活部長 関 弘法
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり	款 02 総務費
	施策(大)	04 地域の安全対策の充実	項 01 総務管理費
	施策(中)	02 交通安全活動の推進	目 07 交通安全費
	施策(小)	03 高齢者の交通安全対策の推進	大 01 交通安全対策推進事業 中 03 高齢者交通安全推進事業
事業期間		終期未定	
要求区分		継続 町長重点政策 -	
根拠法令等		美幌町高齢者等運転免許自主返納支援事業実施要綱	経費区分 政策的経費
事業概要		運転に不安のある高齢者等の運転免許証自主返納を奨励し、高齢者等の加齢による筋力・認知機能等の低下による交通事故防止の推進と、町内路線バス・申込バス・タクシーの共通助成券の交付により公共交通の利用増進を図る。	
事業目的		高齢者等の交通事故防止を推進するため、運転免許の自主返納を奨励する。	
事業の対象		65歳以上又は障害者手帳を持っている方の自動車運転免許の自主返納者又は免許失効者	
実施結果・現状と課題		【実施結果】 公共交通バス・タクシー利用券の交付 【現状と課題】 町民への運転免許証自主返納による助成は定着してきているが、全国的には高齢運転者による交通事故は減少していない。	
事業進捗度		2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度3又は4の理由 - 左の具体的な内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和04年度決算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和06年度決算	令和07年度予算	令和08年度予算
事業費 (千円)	1,036	1,923	2,700	2,141	2,472	2,472
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	987	1,825	2,700	2,141	2,340	0
一般財源	49	98	0	0	132	2,472
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	1,036	1,923	2,700	2,141	2,472	2,472

(見込値)

3. 評価

指標名		単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	
指標 1	免許自主返納者及び免許失効者の 申請数	目標	件	160	160	160	120	120
		実績	件	118	96	116		
		達成率	%	73.75	60	72.5		
指標 2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標 3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	高齢者の事故防止のために町が補助することは妥当			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	高齢運転者やその家族など、高齢者の交通事故を考える機会と交通事故防止に有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	自主返納の契機となっており、返納時1回限り助成で適正である。			
次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		町民への制度の周知は図られてきているが、引き続き高齢者の自主返納を奨励し、共通助成券2万4千円分の助成を行うことにより交通事故防止を推進する。					現状維持	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減						
助成券の使用枚数により各交通事業者から請求を受け、支払いするため現状維持。			予算反映額 (概 算)	0千円				
今後の改善点		制度の定着が図られてきているが、高齢運転者による事故が減少していない現状を踏まえ、今後も町民への周知を行い制度の利用促進を図る。						

令和6年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		公共交通維持確保改善事業		課・グループ名	町民活動課町民活動グループ	
				評価者名	町民生活部長 関 弘法	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	05 公共交通の充実			項	01 総務管理費
	施策(中)	01 総合的な公共交通体系の構築			目	06 辺地対策費
	施策(小)	01 交通網形成における協議・検討			大事業	01 生活バス路線等維持事業
事業期間		終期末定			中事業	03 公共交通維持確保改善事業
要求区分		継続		町長重点政策 ○		
根拠法令等		地域公共交通活性化再生法、道路運送法			経費区分	政策的経費
事業概要		交通事業者への支援事業や美幌町地域公共交通計画に基づく事業により、公共交通の維持確保、利用増進を図る。 (1)生活バス路線運行維持費補助金（路線バスや乗合タクシーに対する赤字補填補助） (2)ＪＲ北海道の路線維持支援に係る経費 (3)美幌町地域公共交通活性化協議会負担金 (4)公共交通維持確保のための運転手確保支援・地域おこし協力隊に関する経費				
事業目的		公共交通路線の維持・充実				
事業の対象		美幌で路線運行しているバス・タクシー・鉄道事業者、美幌町地域公共交通活性化協議会				
実施結果・現状と課題		【実施結果】 町内路線を運行するバス会社・タクシー会社に補助金交付。美幌町地域公共交通活性化協議会へ負担金支出。公共交通運転手確保のため支援策を実施。 ----- 【現状と課題】 地域公共交通計画に基づく路線バスの見直しとデマンドバスの導入によるバス運行地域の拡大を実施し効率的な運行を図るとともに、不足する運転手の確保策を継続して実施する。				
事業進捗度		2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容	

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和04年度決算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和06年度決算	令和07年度予算	令和08年度予算
事業費 (千円)	38,687	40,985	56,783	48,500	68,740	68,740
国支出金	7,021	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	1,132	15,477	30,200	30,635	60,440	0
一般財源	30,534	25,508	26,583	17,865	8,300	68,740
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	38,687	40,985	56,783	48,500	68,740	68,740

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標 1	運行バス路線	目標	本	6	6	6	6	6
		実績	本	6	6	6		
		達成率	%	100	100	100		
指標 2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標 3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	公共交通の路線を維持することは必要であり妥当			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	公共交通の路線を維持するための補助であり有効			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	国からの補助もあり、経費は適正である			
次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		地域間幹線系統路線、地域内フィーダー系統路線、町単独補助路線に対し生活バス路線運行維持費補助金を交付。デマンドバス運行によりバス運行地域の拡大を図り、効率的なバス運行をする。運転手確保支援、地域おこし協力隊制度を利用し運転手の確保を図る。						現状維持
	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減	生活バス路線運行維持費補助金の交付、デマンドバス運行委託、運転手確保支援策の実施のため現状維持					予算反映額 (概 算)	
今後の改善点		国・道の補助が安定的に継続されることが路線維持確保の前提のため、国の動向を情報収集する。運転手確保支援、地域おこし協力隊制度による運転手の確保により、公共交通の維持確保を図る。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	災害時備蓄計画に基づく備蓄状況	目標	%		100	100	100	100
		実績	%		100	100		
		達成率	%		100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	避難所で使用する資機材については、町が整備する必要があるため。また、非常用持出品の配布については、町民の防災意識の向上を図るため、一定の防災用品を無償で全戸配布し、防災に対するきっかけづくりを目的とする。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	避難所や災害対応職員を対象に必要なとされる資機材を年次的に整備することが必要なため。また、全町民向けに非常用持出品を配布することにより、公正な競争を確保しながら、より安価な業者より調達している。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	入札又は複数者による見積合わせを実施することにより、公正な競争を確保しながら、より安価な業者より調達している。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 防災備蓄計画に基づいて防災資機材を整備する。町民の防災意識の向上を図るため、一定の防災用品を無償で全戸配布し、防災に対するきっかけづくりを目的とする。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 転入者向けの非常用持出品の調達					現状維持	
今後の改善点		日頃からの備えとして、避難所等における備蓄品の見直し、検討を図る。						

令和6年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		防災訓練事業		課・グループ名	危機対策課危機対策グループ	
				評価者名	総務部長 那須 清二	
総合計画	基本目標	01 人を創り、地域力を高めるまちづくり		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	07 防災体制の強化			項	01 総務管理費
	施策(中)	01 防災体制の充実、強化			目	11 諸費
	施策(小)	02 備品の整備や訓練による防災意識の向上、体制の強化			大事業	01 防災対策事業
事業期間	終期末定		平成27年度～		中事業	03 防災訓練事業
要求区分	継続町長重点政策○					
根拠法令等	美幌町地域防災計画				経費区分	政策的経費
事業概要	美幌町自治会連合会や単位自治会等の地域及び消防や警察等の各関係機関と連携した避難行動訓練を実施する。町が主催する総合防災訓練を3年に一度実施する。(次回令和7年度実施) また、美幌駐屯地隊区内2市8町防災担当職員による災害対処研修会を実施し、更なる連携強化を図るほか、厳冬期における災害を想定した訓練を実施することで、防災意識の向上と体制を強化する。					
事業目的	自助、共助、公助の役割について理解し、災害に対する町民の防災意識の高揚を促し、発災後における被害や混乱を最小限度にとどめる。					
事業の対象	職員、町民、自衛隊、消防、警察、気象台					
実施結果	【実施結果】 職員、住民、自衛隊、消防、警察、気象台等と連携した避難行動訓練、図上訓練等を行う。					
現状と課題	【現状と課題】 地域の特性に合わせた避難行動訓練や図上訓練を開催しているところだが、より多くの町民の参加により、訓練を通じて日頃から避難経路の把握や災害への備えを浸透させ防災意識の醸成を図る。					
事業進捗度	2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況		進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容	

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和04年度決算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和06年度決算	令和07年度予算	令和08年度予算
事業費 (千円)	317	39	73	39	486	73
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	200	0	0	0	0	0
一般財源	117	39	73	39	486	73
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	317	39	73	39	486	73

(見込値)

3. 評価

指標名		単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	防災訓練実施回数	目標	回	4	4	4	4
		実績	回	3	4	4	
		達成率	%	75	100	100	
指標2		目標					
		実績					
		達成率	%				
指標3		目標					
		実績					
		達成率	%				
項目		評価の視点		評価	理由		
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	地域に対し、自助、共助、公助の役割の理解と防災意識の高揚を促すことで、災害時の被害を最小限に抑えるため。		
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	地域や関係機関と連携して各種訓練を開催することで、災害への備えと、災害が発生した場合における連携強化を図ることができ		
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	各種防災訓練を通じ、地域内の連携及び地域の防災意識の高揚を図り、かつ関係機関との連携強化を図る。		
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果
		美幌町自治会連合会や単位自治会など地域と連携した避難行動訓練や図上訓練を実施する。					現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		全町的な訓練は3年に1度であるが、単位自治会との訓練や図上訓練を通じて、防災意識の向上を図る。					

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	個別避難計画整備率	目標	%			0	100	100
		実績	%			3		
		達成率	%					
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	避難行動要支援者の災害時の被害を最小限に抑えられるため。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	避難計画を作成することで、自助、共助の役割を平時から備えることができ、実災害時に実用性のある避難が可能となるため。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		－				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		全地区を対象に個別避難計画の作成に取り組む。						改善
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減						
		今後のシステム導入を見据えながらも、民生委員や自治会長と協力し、情報共有をしながら計画作成に取り組む。				予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		福祉部局との連携を図り、実用的で更新可能な運用を目指した仕組みを構築する。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	介護者の負担軽減及び要介護者の健康増進を図ることは妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	定期利用に繋がり有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	自己負担もあり適正な経費である。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		周知を継続し、利用促進を図る。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		事業継続のための予算の確保が必要。		予算反映額 (概 算)	
今後の改善点		周知により入浴証交付者数を増加させることが必要。			

令和6年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		地域福祉活動支援事業		課・グループ名	保健福祉課高齢介護グループ		
				評価者名	福祉部長 吉田 善一		
総合計画	基本目標	02 自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ			予算科目	款	03 民生費
	施策(大)	02 高齢者福祉の充実				項	01 社会福祉費
	施策(中)	02 自立生活の支援				目	03 高齢者福祉費
	施策(小)	04 生活環境の整備				大事業	01 高齢者福祉推進事業
事業期間		終期末定	平成21年度～		中事業	01 地域福祉活動支援事業	
要求区分		継続 町長重点政策 ー					
根拠法令等				経費区分		政策的経費	
事業概要		市街地の自治会単位で活動している「たすけあいチーム」に対し、地域福祉活動補助金を交付し活動の支援を行う。町で全ての高齢者宅等の間口除雪を行うことは不可能であり、「たすけあいチーム」に協力を依頼している。その負担軽減のために、「たすけあいチーム」に家庭用除雪機を貸与する事業を平成21年度から開始している。					
事業目的		たすけあいチームに除雪機を貸与することにより、高齢者宅等の間口除雪作業を支援していく。					
事業の対象		各自治会たすけあいチーム					
実施結果		【実施結果】 町所有の除雪機を貸与し、高齢者世帯への間口除雪を実施。					
現状と課題		【現状と課題】 チーム員の高齢化や人員の確保が困難となっている。					
事業進捗度		2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度3又は4の理由	ー	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和04年度決算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和06年度決算	令和07年度予算	令和08年度予算
事業費 (千円)	1,110	3,363	1,667	1,246	1,734	1,734
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	600	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	1,000	2,000	1,000	1,010	1,000	1,000
一般財源	110	763	667	236	734	734
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	1,110	3,363	1,667	1,246	1,734	1,734

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標 1	除雪機貸与台数	目標	台数	21	24	24	24	24
		実績	台数	21	20	20		
		達成率	%	100	83.33	83.33		
指標 2	除雪対象世帯数	目標	世帯	134	134	134	150	150
		実績	世帯	141	177	122		
		達成率	%	105.22	132.09	91.04		
指標 3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	「たすけあいチーム」への支援は、高齢者等の除雪負担軽減のために不可欠であり妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	除雪作業の負担軽減のために、小型除雪機の貸与は有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	「たすけあいチーム」のボランティアにより実施されており、経費削減に貢献している。			
次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 高齢者世帯への間口除雪支援は今後も必要であり事業を継続する。						評価結果
								現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 事業を維持するための予算を確保していく。				予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		除雪機が老朽化しているため適切な修繕が必要。						

令和6年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		課・グループ名		保健福祉課高齢介護グループ				
在宅福祉サービス支援事業		評価者名		福祉部長 吉田 善一				
総合計画	基本目標	02 自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ		予算科目	款	03	民生費	
	施策(大)	02 高齢者福祉の充実			項	01	社会福祉費	
	施策(中)	02 自立生活の支援			目	03	高齢者福祉費	
	施策(小)	04 生活環境の整備			大事業	02	在宅福祉事業	
事業期間		終期末定		中事業		02 在宅福祉サービス支援事		
要求区分		継続		町長重点政策		○		
根拠法令等		美幌町介護予防・生活支援事業条例				経費区分		政策的経費
事業概要		高齢者の自立した在宅生活を確保するために、介護予防・生活支援事業に基づく特定高齢者訪問介護や移送サービスなどの支援や在宅高齢者の住環境整備支援を拡充する。						
事業目的		高齢者等に介護が必要な状態に陥り、さらに悪化しないような介護予防を推進させ、自立した生活を確保することができるよう支援を行う。						
事業の対象		要介護状態等となるおそれのある高齢者等						
実施結果・現状と課題		【実施結果】 要介護状態等となることを予防し、自立した日常生活を営むことに寄与できた。						
現状と課題		【現状と課題】 当サービスを必要とする方への制度の周知を徹底する必要がある。						
事業進捗度		2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況		進捗度3又は4の理由		-		左の具体的な内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和04年度決算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和06年度決算	令和07年度予算	令和08年度予算
事業費 (千円)	3,317	3,358	13,921	8,409	16,117	16,117
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	3,317	3,358	13,000	8,000	16,000	16,000
一般財源	0	0	921	409	117	117
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	3,317	3,358	13,921	8,409	16,117	16,117

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	移送サービス利用回数 (延べ回数)	目標	回			400	450	450
		実績	回			418		
		達成率	%			104.5		
指標2	住宅改修助成件数	目標	件	4	5	5	2	2
		実績	件	2	0	1		
		達成率	%	50	0	20		
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	高齢者等の自立した生活を送るための支援であり妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	自立した生活を確保するための介護サービスに準じた支援等を提供しており有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	介護報酬単価を基本としており適正な経費である。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		サービスの提供は今後も必要とされており、事業は継続する。						現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減				予算反映額 (概 算)	0千円	
		事業継続のための予算の確保が必要。						
今後の改善点		未だに制度を知らない高齢者等が存在しているため、本サービス支援事業について更なる周知が必要。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標 1	資格取得助成	目標	人	20	20	20	6	6
		実績	人	7	2	4		
		達成率	%	35	10	10		
指標 2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標 3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	町内事業所の介護従事者不足解消のため妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	資格取得の後押しとなるものとして、介護従事者から高評価であり、有効性は高い。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	町内事業所勤務が補助の条件のため、効率性は高い。			
次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 制度の再周知を行い、介護人材確保のため資格取得への促進を図る。 令和7年度より、介護事業所において外国人介護職員を確保した場合に採用等に係る経費を助成する制度を追加します。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 事業継続のための予算の確保が必要。				予算反映額 (概 算)	0千円	現状維持
今後の改善点		介護人材の確保に向け、事業所とも連携しながら事業周知を徹底していく						

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	利用者（助成対象者）	目標	人	2,300	2,505	2,800	3,200	3,200
		実績	人	2,525	2,917	3,092		
		達成率	%	109.78	116.45	110.43		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	障がい者の方々の健康増進を行うため、現在の事業内容は妥当だと考える。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	助成を行うことで、障がいを持つ方の利用が増えることとなり、「峠の湯」の利用促進が図られるため、事業内容は有効と考える。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		検討	まだ事業開始2年目であるため、今後の利用実績等を見ながら、今後の運用内容等を検討していく。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		障がいを持つ方の健康増進が図られるため、現在の事業内容を継続して実施すべきと考え、介助者についても併せて助成することで更に利用しやすい制度とする。						改善
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現段階では、利用料金の半額を助成する内容をベースに次年度も実施することで考えている。				予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		介助者についても障がいを持つ方と一緒に入浴助成対象とすることで更に利用しやすい内容に拡充する。今後も利用者の方から、意見を聞くなど助成内容を確認しながら、事業を進めていく。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	地域生活支援事業の利用者数	目標	人		100	105	110	115
		実績	人	92	100	104		
		達成率	%		100	99		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	法により町での実施が定められているため、妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	相談などを通じ必要なサービスへつなげているため有効性及び効率性がある。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	相談などを通じ必要なサービスへつなげているため有効性及び効率性がある。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		必要なサービスを提供するため現在の制度を継続する。						
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減					現状維持	
		必要なサービスを提供するため現在の制度を継続する。			予算反映額 (概 算)	0千円		
今後の改善点		事業内容を検討する。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	検討	農業者が必要とする施策が検討を行う。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	関係機関と連携を図っている。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	関係機関と連携を図っている。

次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		障がい福祉サービス事業所や生産者と連携を深め、農福連携を推進する。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		現状予算の範囲内で事業推進を図る。	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点	障がいサービス事業所や生産者と連携を深めること。				

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	協議会開催回数	目標	回	2	3	2	2	1
		実績	回	1	1	2		
		達成率	%	50	33.33	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	子ども・子育て支援事業計画を推進しているため妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	必要な協議が実施できている。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	国の制度に基づいているため適正である。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		現計画及び民間幼稚園の意向を汲んだ事業の推進を図る。						
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減					現状維持	
		認定こども園等の適正な運営を図るため、継続して支援する。				予算反映額 (概 算)		
今後の改善点		第3期子ども・子育て支援事業計画を令和7年3月に策定。社会経済情勢や保育ニーズの変化に対応しながら事業を実施する。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	対象児童数	目標	人		1,797	1,984	1,843	1,843
		実績	人	1,527	1,452	1,843		
		達成率	%		80.8	92.9		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	子ども子育て支援事業として、子どもの医療費について助成することは福祉の増進に寄与するため妥当。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	美幌町内高校生年代までの子どもの疾病の早期診断と早期治療が図られるため、事業内容は有効。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		検討	高校生年代まで助成を拡充したことにより、今後の実績等を見ながら評価する。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		子どもの疾病の早期診断と早期治療が図られるため、現在の事業内容を継続して実施すべきと考える。						現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減						
		現在の制度内容を継続する。				予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		令和6年8月から高校生年代まで助成を拡充したことにより、必要な予算額の積算について、実績を踏まえた確実な額を計上する。						

令和6年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		民間保育園利用者補助事業		課・グループ名		社会福祉課児童支援グループ		
				評価者名		福祉部長 吉田 善一		
総合計画	基本目標	02 自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ		予算科目	款	03	民生費	
	施策(大)	04 子育て支援の充実			項	02	児童福祉費	
	施策(中)	03 保育園(所)の充実			目	01	児童福祉総務費	
	施策(小)	03 0歳児保育・休日保育の推進			大事業	01	児童福祉事務	
事業期間		単年度		中事業		02	民間保育園利用者補助事	
要求区分		継続		町長重点政策		ー		
根拠法令等						経費区分		政策的経費
事業概要		町で実施していない0歳児保育を行っている民間（NPO）保育所に対し、0歳～2歳児までの利用者には町保育料との差額を補助し、保護者の負担軽減を図る。						
事業目的		保護者の経済的負担の軽減						
事業の対象		民間（NPO）保育所に通園する児童の保護者						
実施結果		【実施結果】 補助金の交付を行う。						
現状と課題		【現状と課題】 施設の老朽化及び人材（保育士等）確保の課題がある。						
事業進捗度		2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況		進捗度3又は4の理由		ー		左の具体的な内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和04年度決算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和06年度決算	令和07年度予算	令和08年度予算
事業費 (千円)	10,570	9,753	15,804	12,233	14,645	14,112
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	10,570	9,753	15,804	12,233	14,645	14,112
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	10,570	9,753	15,804	12,233	14,645	14,112

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	補助対象保育園数	目標	箇所	1	1	1	1	1
		実績	箇所	1	1	1		
		達成率	%	100	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	町で実施していない0歳児保育を行っており、子育て支援のため妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	該当となる保育園は1園のみであり、対象となっている。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	保護者の経済的負担の軽減が図られており、多子軽減については町の保育園同様の考え方であるため適正である。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		0～2歳児の保護者の経済的負担軽減のための補助金を交付する。					現状維持	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			0千円			
今後の改善点		認可外保育所（ひまわり保育園）が令和9年3月末（令和8年度）に閉園予定となったため、閉園まで支援を行っていく。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	妊産婦期及び子育て世代への経済的支援は安心して子育てできる環境づくりとして必要である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	目標を上回る実績もあり、有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	交通費の補助額として適正である。

次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		子育て世帯の経済的負担を軽減していくため、事業は継続。 保険適用となり道の補助事業が終了した特定不妊治療費助成事業は、令和５年度以降は町独自の助成事業として継続。			現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			
		現状維持のまま実施することが適当である。		予算反映額 (概 算)	
今後の改善点	少子化が加速しているが、これからも安心して子育てができるよう、子育て世代に対し必要な支援を検討していく。				

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	長生きを楽しむ町づくりを推進するために、推進委員会を開催し、町民向けの講演会を開くことができた。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	医師会との協力のもと、祝祭日の医療体制の確保が図れた。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	津別、大空、美幌町の3町で人口比で費用負担しながら体制確保している。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		保健・医療・福祉ネットワーク推進委員会としての目的達成を評価、見直しを行う。フレイル予防として口腔ケアの推進を図る。 地域医療推進に向け、開業医の確保も含めた医療体制の維持・整備に努める。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		令和7年度は現状維持のまま実施することが適当である。 予算反映額 (概 算) 0千円			
今後の改善点		保健・医療・福祉ネットワーク推進委員会：各委員と地域課題を共有し、フレイル予防中心に長生きを楽しめる町づくりを町民向けに推進していく。			

令和6年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		固定医師確保事業		グループ担当名	国保病院総務課総務グループ		
				評価者名	事務長 遠藤 明		
総合計画	基本目標	02 自然の美しさやくらしの安全を、みんなで護りあうまちづくり		予算科目	勘	病院事業会計	
	施策(大)	06 地域医療体制の充実			項		
	施策(中)	01 国民健康保険病院の充実			目		
	施策(小)	01 固定医師の確保			大事業		
事業期間		10年度以上		平成	年度	令和	年度
要求区分		継続		町長重点政策		○	
根拠法令等				経費区分		投資的経費	
事業概要		病床機能を有する地域の基幹的病院として、医師確保による診療の体制の充実を図り地域に必要な医療を安定的に提供する。今後も安定した医療の提供を行うため、出張医で対応している眼科医師の常勤化や必要とする常勤医の招聘に努める。					
事業目的		必要な医師を確保し継続的な医療を提供する。					
事業の対象		全町民対象（病院利用患者）					
実施結果 現状と課題		【実施結果】 令和6年4月1日付で脳神経外科医、放射線科医（非常勤）の2名を採用。 【現状と課題】 医師の定着を図るための勤務環境の改善や、今後も診療体制の充実と眼科医師の常勤化など必要な医師の確保に努める必要がある。					
事業進捗度		2 予定通りに進んでおり、順調な進捗状況		進捗度3又は4の理由		左の具体的な内容	

2. 年度別事業費

（単位：千円）

	令和04年度決算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和06年度決算	令和07年度予算	令和08年度予算(見込)
事業費 (千円)	13,751	6,077	726	726	726	726
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	726	726	726	726	726	726
一般財源	13,025	5,351	0	0	0	0
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	13,751	6,077	726	726	726	726

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標 1	医師確保数	目標	人	1	1	1	1	1
		実績	人	2	1	2		
		達成率	%	200.0	100.0	200.0		
指標 2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標 3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	良質な医療を提供するためにも医師の確保が引き続き必要である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	医師確保が困難の中、有効な取り組みである。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		検討	成功報酬制による医師の探索、紹介など、専門の紹介業者に委託するため効率性が高い反面、医師紹介手数料が高い。			
次年度の取組の方向性	事業	☐ 拡充 ☒ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 休止・廃止					評価結果	
		安定的な診療体制の構築のためにも、引き続き医師確保の取り組みを進める。					現状維持	
	予算	☐ 拡充 ☒ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 皆減		紹介業者への紹介手数料（想定年収の25%）を確保（補正対応）。		予算反映額（概 算）		
今後の改善点		人材紹介以外の手法による医師確保の検討。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	支援該当者数	目標	人	100	34	32	30	30
		実績	人	23	25	23		
		達成率	%	60.52	73.52	71.88		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	町内医療機関の医療従事者不足を解消するために町が実施することは妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	目標達成度は概ね高水準であり、適切である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	医療従事者の不足解消および定着に効果があり、適正である。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		医療従事者不足の解消のため事業を継続する。						
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減					現状維持	
		医療従事者が不足しているため、今後も予算を現状維持として医療従事者の不足を解消する。			予算反映額 (概 算)	0千円		
今後の改善点		医療従事者の確保に向け、医療機関とも連携しながら事業の周知を徹底していく。						

令和6年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		課・グループ名	
開業医誘致等助成事業		保健福祉課・健康推進グループ	
		評価者名	
		福祉部長 吉田 善一	
総合計画	基本目標	02 自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ	款
	施策(大)	06 地域医療体制の充実	項
	施策(中)	07 医師の開業支援	目
	施策(小)	00	大事業
			中事業
事業期間		10年度	令和6年度～令和16年度
要求区分		継続	町長重点政策 ○
根拠法令等		美幌町開業医誘致等助成金交付要綱	経費区分 政策的経費
事業概要		地域における医療体制の構築のため、町内に新たに診療所等を開設する開業医に対し開業費用の一部を助成し、町民の健康及び増進を図る。	
事業目的		地域における医療体制の構築の推進。 医療体制の確保による町民の健康及び増進を図ること。	
事業の対象		美幌町に新たに診療所等を開業する開業医（医師または医療法人）	
実施結果・現状と課題		【実施結果】 令和6年度から助成事業を実施。 【現状と課題】 誘致対象が医師ということもあり、周知方法が課題となっている。また地方の医師が不足している中の誘致であるため、医師会等情報共有しながら効果的な周知方法を検討していきたい。	
事業進捗度		4 予定どおりに進んでおらず、遅れている	進捗度3又は4の理由 開業を考えている医師の不足等

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和04年度決算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和06年度決算	令和07年度予算	令和08年度予算
事業費 (千円)	0	0	50,000	0	0	0
国支出金	-	-	0	0	0	-
道支出金	-	-	0	0	0	-
地方債	-	-	0	0	0	-
その他	-	-	0	0	0	-
一般財源	0	0	50,000	0	0	0
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	0	0	50,000	0	0	0

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	新規医療機関数	目標	件			1	1	1
		実績	件			0		
		達成率	%			0		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	当町の医療機関不足を解消するために町が実施することは妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	達成すべき目標の高さから、実績が無かったのは仕方がなく妥当である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	周辺自治体と比較しても乖離していることはなく、妥当である。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		医療機関の充実のため、事業を継続する。					改善	
	予算	○ 拡充 ○ 現状維持 ● 縮小 ○ 皆減			事業実施は維持するものの、想定される実施件数の少なさから、当初予算への算定は行わないこととする。			
今後の改善点		医療機関の充実に向け、事業の周知を徹底していく。また、医療機関やそれらに対する広報メディアなども活用しながら制度の周知を行う。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	2050年のゼロカーボンシティ実現に向け妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	令和7年度から事業の実行フェーズに入るため、有効性の評価は今後行う。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	ハード整備は多額の費用を要することが予想されるため、期待される成果を見極め、要する経費が適正であるかを検証する。

次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		排出量削減のみの達成ではなく、地域課題の解決に資するものであることなど、多岐に渡る効果が期待できるものを調査・研究し、事業推進を図る。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		事業の方向性を鑑みた必要事業の計上を行う。		予算反映額 (概 算)	
今後の改善点		目標達成に向けた、必要設備の精査と実施事業の効果とリスク検証を行い、本町のポテンシャルや状況にあった事業推進ができるよう調査検討を行う必要がある。			

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	花苗配布	目標	本	85,000	85,000	85,000	78,000	78,000
		実績	本	87,381	86,572	83,101		
		達成率	%	102.8	101.85	97.77		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	緑の基本計画に基づく事業であり、実施主体は町が妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	土づくりから育苗まで民間に委託し、安定した花苗の配布を行っている。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	必要最低限の経費で事業を行っている。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		現状維持のまま実施することが適当である。						現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減				予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		安定した花苗づくりができるよう努める。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	企業誘致、増設の補助件数	目標	件	-	1	4	5	4
		実績	件	-	1	4		
		達成率	%		100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	町の経済活性化に対する企業誘致及び増設投資の影響度は高く妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	町の経済活性化に対し産業の振興及び雇用の創出に結びつくものであり有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		検討	令和4年度に美幌町企業立地促進条例を制定しており今後の状況を注視する。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		令和4年度に美幌町企業立地促進条例を制定し、令和5年度から補助金を支出している。						
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 対象事業所が増えるため、予算増となる。				予算反映額 (概 算)	0千円	現状維持
今後の改善点		制度周知を図り、企業誘致へつなげるとともに、工業用地の空き地がほぼ無いため、工業用地の拡張を図る。						

令和6年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		起業家支援事業		課・グループ名	商工観光課商工観光グループ		
				評価者名	経済部長 河端 勲		
総合計画	基本目標	03 まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり		予算科目	款	07 商工費	
	施策(大)	01 雇用の拡大、安定			項	01 商工費	
	施策(中)	04 起業や新たな事業化の推進			目	02 商工業振興費	
	施策(小)	01 新規起業家に対する支援制度の充実			大事業	02 商工業活性化促進事業	
					中事業	04 起業家支援事業	
事業期間		終期末定	平成27年度～				
要求区分		継続		町長重点政策		○	
根拠法令等		美幌町起業家支援事業補助金交付要綱				経費区分	政策的経費
事業概要		町内で起業を図る事業者に対し、起業に必要な経費、店舗賃借料等の一部を補助することにより、多様な人材を確保し、地域の新たな雇用を創出するとともにまちのにぎわいを促し、もって地域経済の振興に寄与することを目的とする。					
事業目的		多様な人材の確保、雇用機会の創出。					
事業の対象		起業希望者					
実施結果・現状と課題		【実施結果】 5年度は起業に必要な補助をし、地域おこし協力隊1件、新規3件の起業に繋がり、既に起業した3件に家賃補助することによって経営の安定に繋がっている。6年度も、新規3件の起業へ補助をしている。 【現状と課題】 令和3年度からは創業計画作成時に商工会議所が積極的な関り（指導）を行なっているため、安定した事業のスタートが出来ている。					
事業進捗度		2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和04年度決算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和06年度決算	令和07年度予算	令和08年度予算
事業費 (千円)	6,520	8,402	6,000	4,275	6,000	6,000
国支出金	0	0	0	0	0	-
道支出金	0	0	0	0	0	-
地方債	0	0	0	2,600	0	-
その他	6,520	7,400	3,000	1,675	3,000	-
一般財源	0	1,002	3,000	0	3,000	6,000
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	6,520	8,402	6,000	4,275	6,000	6,000

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	起業補助件数	目標	件	5	6	3	3	3
		実績	件	2	7	3		
		達成率	%	40	116	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	雇用の創出は重要な施策であり、妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	制度開始から31件の実績があり、雇用の創出が図られており有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	経費負担がネックとなる新規起業を促す意味からも、適正な経費である。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		継続して実施する。					現状維持	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			予算反映額 (概 算)	0千円		
今後の改善点		引き続き、会議所と連携し起業を支援していく。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	検討	町としてできることと、事業者が望む事をすり合わせしていく
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	今後の労働者不足を考えるうえで有効である
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	事業内容を検討していく

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		必要な助言を行えるよう情報収集に勤める			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		事業内容を検討していく	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点	情報提供の仕方及び実効性のある外国人労働者の採用支援				

1. 事業内容

2. 年度別事業費

		令和04年度決算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和06年度決算	令和07年度予算	令和08年度予算
事業費	(千円)	1,115	1,575	1,614	1,482	1,502	1,502
国支出金		0	0	0	0	0	-
道支出金		0	0	0	0	0	-
地方債		0	0	0	0	0	-
その他		0	1,000	1,000	1,000	1,000	-
一般財源		1,115	575	614	482	502	1,502
人件費	(千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費	千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費)	(千円)	1,115	1,575	1,614	1,482	1,502	1,502

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	原採種圃設置戸数	目標	戸		23	22	22	21
		実績	戸	23	22	21		
		達成率	%	100	95.65	95.45		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	安全、安心な農作物の安定生産が求められており、妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	病虫害の異常発生予防、優良種子確保が進めるため、有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	安全、安心な農作物の安定生産のため、適正な経費の負担となっている。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		現状のまま、実施することが妥当である。						現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減				予算反映額 (概 算)	0千円	
		現状のまま、実施することが妥当である。						
今後の改善点		設置戸数が減少傾向にあることから、関係機関と連携の上、設置戸数や面積の拡大を図っていく。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(昇込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	有害鳥獣捕獲頭数	目標	頭		600	600	600	700
		実績	頭	528	587	579		
		達成率	%	88	97.83	96.5		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律に基づき、町が実施する事業である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	事業計画どおりの駆除が実施されており、有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	ＪＡと協力して実施することで適正な経費となっている。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		農作物被害が拡大していることから、更なる拡充を図る。						
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減					拡充	
農作物被害が拡大していることから、更なる拡充を図る。								
		予算反映額 (概 算)					143千円	
今後の改善点		鳥獣による農作物被害を減少させるため、関係機関との連携を更に図っていく。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	女性農業体験実習生の受入数	目標	人	4	4	2	2	2
		実績	人	6	0	0		
		達成率	%	150	0	0		
指標2	農家花嫁希望者の受入数	目標	人		2	1	1	1
		実績	人		2	2		
		達成率	%		100	200		
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	農家青年配偶者対策はJAとの連携によって事業が継続化されており、事業継続化による成果も得られている。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	女性農業体験実習生の受入実績が無く、農家青年との交流機会を実施できなかったが、受入時には配偶者対策に繋げる。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	女性農業体験実習生と農家青年との成婚実績はH16年からの20年間で7組に達しており、成婚実績は道内有数であることから効率			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		農家青年配偶者対策については地域巡回や面談を通じて結婚相談員や地域との連携を更に密にして関係者が一体となった取り組み体制の強化を図ると共に、農家花嫁希望者を積極的に受入する中で、農家青年との交流の場を設け、成果に繋げていきたい。					現状維持	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状の成果を維持する中で、施設等を修繕していく。				予算反映額 (概 算)		
今後の改善点		農家青年配偶者対策については、結婚相談員や地域との連携を密にして取り組み体制の強化を図ると共に、農家花嫁希望者を積極的に受入する中で、農家青年との交流の場を設け、成果に繋げていきたい。						

令和6年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		課・グループ名	みらい農業課農業センターグループ	
みらい農業センター推進事業		評価者名	経済部長 河端 勲	
総合計画	基本目標	03 まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	款	06 農林水産業費
	施策(大)	02 農業の振興	項	01 農業費
	施策(中)	02 担い手の育成確保と生産性の向上	目	04 農業振興費
	施策(小)	01 担い手対策及び花嫁対策の推進	大事業	06 みらい農業センター管理
事業期間	終期未定		中事業	04 みらい農業センター推進
要求区分	継続 町長重点政策 ○			
根拠法令等	美幌町補助金等交付規則美幌みらい農業センター新規就農予定者研修実施要綱・			経費区分 政策的経費
事業概要	美幌町で新たに農業を営もうとする意欲ある新規就農予定者の円滑な就農促進を図るため、美幌みらい農業センターにおいて、基礎から実践技術にいたる広範な技術、知識等を習得させるために必要な農業研修に対し支援することを目的とする。			
事業目的	将来、地域農業の核となる新規就農者を育成し、農業基盤の強化を図る。			
事業の対象	美幌みらい農業センター新規就農予定者農業研修実施要綱に基づき、町長から研修許可を受けた、新規就農予定者。			
実施結果・現状と課題	【実施結果】 これまでに15組の経営継承による新規就農実績がある。現在は、離農予定者から経営資産を一括継承する「第三者経営継承」による新規就農方式を推奨して事業継続している。 【現状と課題】 現在、新規就農研修生は在在していない。			
事業進捗度	4 予定どおりに進んでおらず、遅れている	進捗度3又は4の理由	その他	左の具体的な内容 現在、第三者経営継承を希望する農業者からの申し出がなく、新規就農研修生の募集は実施していない。

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和04年度決算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和06年度決算	令和07年度予算	令和08年度予算
事業費 (千円)	818	833	2,719	118	2,747	2,747
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	818	833	2,719	118	2,747	2,747
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	818	833	2,719	118	2,747	2,747

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標 1	新規就農予定者	目標	年目	1	1	1	1	1
		実績	年目	1	1	0		
		達成率	%	100	100	0		
指標 2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標 3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	新規就農者の育成には農業研修のほか、経営継承先や地域との就農に関わる各種調整、資金計画など、総合的に育成する必要がある			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	近年の就農形態は経営継承方式による新規就農に取り組んでおり、新規就農者及び離農者双方にメリットがあることから新規就農			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	新規就農者の育成には一定の費用負担は発生するものの新規参入者による就農によって農地の流動化が促進し、農村地域の人口維			
次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 農業者、JA美幌などの関係機関との連携を密にし、第三者経営継承意向のある農業者の確保に努める。					評価結果	
		○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 第三者経営継承に意向のある農業者が現れることを想定し、新規就農研修生の支援制度に基づいた予算を計上する。					現状維持	
	予算				予算反映額 (概 算)	0千円		
今後の改善点		現在、経営継承による新規就農希望の問い合わせは多いものの、経営継承を希望する農家がないため、農家からの希望を受け次第、双方をマッチングし新規就農予定者の育成や継承に取り組んでいく。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	農作業に係る地域の労働力不足への対応を図るため、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	利用面積の拡大が図られており、有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	J Aが立ち上げたコントラ事業を支援することで、効果的に運用ができているため、効率性は高い。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		今後も他の作物などでコントラ事業の導入が検討されている場合は、関係機関と連携の上、取り進めて行く。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		新たなコントラ事業について検討段階であることから、現状維持となる。	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点	地域の労働力不足へ対応するため、生産者が求めているコントラ事業について関係機関と連携をさらに図っていく。				

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	担い手確保が求められる中、引き続き、支援が必要であり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	担い手確保対策として、新規農業者等への支援は、有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	担い手確保及び農業経営の安定のため、適切な経費となっている。

次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		新規就農者、新規農業従事者を支援することにより、担い手の確保に努める。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		新規就農者、新規農業従事者の定着を図る。	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点	今後とも適切な補助金の活用により、担い手の確保を図っていく。				

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	地域特性に合った新規作物や新技術の研究調査は地域事情に精通する地域農業センターが担う必要があり、大きな成果も得られて
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	新規作物や新技術の調査研究は農業者への情報提供、提案を実施していくという共通認識でJA美幌、普及せ、日甜と連携して取組
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	新規作物や新技術の調査研究は、最小限の費用で最大の効果をあげており、効率性は極めて高い。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		新規作物や新技術の調査研究結果は単発的な発信で効果が得られるものではないことから、継続的な検証と更なる進化を追求した試験栽培に取り組む。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		現状の成果を維持する中で、高騰する作物栽培用消耗品の増額や備品を購入していく。	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		新規作物や新技術の調査研究結果は単発的な発信で効果が得られるものではないことから、継続的な検証と更なる進化を追求した試験栽培に取り組む。			

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	日帰り農業体験受入実績	目標	人	50	100	100	100	100
		実績	人	2	82	183		
		達成率	%	4	82	183		
指標2	農家民泊受入実績	目標	人	20	20	20	20	100
		実績	人	0	0	0		
		達成率	%	0	0	0		
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	「美幌町観光まちづくり協議会」が令和3年度をもって解散した事により、令和4年度からはみらい農業センターが事務局となり			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	目標受入人数に対し、約1.8倍の受入実績を達成することができたため手段は適切である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	目標人数を100名とした予算計上に対し、達成した実際の受入実績が約1.8倍の183名であるため現行経費のバランスは適正である			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		修学旅行生等を対象に農業体験や農村生活の場を提供する中で都市農村交流を図り、農業者や関係機関と連携しながら展開することで地域農業の魅力を発信するとともに、新たな農業収益策としての確立を目指す。					現状維持	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減						
受入農家の推進拡大を図るとともに、来町校の誘客のため学校訪問や誘客を目的とした教育旅行フェアなどへの参加、旅行業者への訪問を行っていく。				予算反映額 (概 算)	0千円			
今後の改善点		受入農家の推進拡大と来町校の誘客を積極的に取り組んでいく。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	検討	現状に有効な支援策か検討する必要がある。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	乳用牛の資質向上、乳質向上に繋がっており、有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	関係機関との連携を図ることにより、効率的な運営が図られている。

次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		優良な経産牛の確保に有効な施策検討を事業と並行して行う。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		現行のままで妥当と考える。	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点	優良な経産牛を確保するための支援策の検討を行う。				

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	十勝市場に対する町内黒毛和牛の価格比	目標	%	100	100	100	100	100
		実績	%	83.8	86	85.7		
		達成率	%	83.8	86	85.7		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		検討	現状に有効な支援策か検討する必要がある。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	優秀な繁殖雌牛の牛群整備のため、有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	事業主体への経費の一部助成に努めており、適正な経費となっている。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 優良な繁殖雌牛の牛群整備を図るために有効な施策検討を事業と並行して行う。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現行のままで妥当と考える。					現状維持	
今後の改善点		生産者のニーズに対応した支援策を検討するため、関係機関と連携を図る。						
		予算反映額 (概 算)					0千円	

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	農道整備進捗状況	目標	%		0	5	15	37
		実績	%	0	0	5		
		達成率	%			100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	農道整備にて地域の農業生産基盤の整備を図る			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	生産性の向上安定した農業の経営を図る			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	生産性の向上安定した農業の経営を図る			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 計画的に事業推進の継続					評価結果 現状維持	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 計画的に予算執行の継続						
今後の改善点		関係機関・地元農家と連携の上、事業をけいぞくしていく必要がある						

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	農地整備進捗状況	目標	%		68	92	100	
		実績	%	54	68	92		
		達成率	%	100	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	地域の農業生産基盤の整備を図る			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	生産性の向上安定した農業の経営を図る			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	生産性の向上安定した農業の経営を図る			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 計画的に事業推進の継続					評価結果 現状維持	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 計画的に予算執行の継続						
今後の改善点		関係機関と地元農家と連携の上、事業を継続していく必要がある						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標 1	農地整備進捗状況	目標	%		44	64	73	85
		実績	%	30	44	64		
		達成率	%	100	100	100		
指標 2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標 3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	地域の農業生産基盤の整備を図る			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	生産性の向上安定した農業の経営を図る			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	生産性の向上安定した農業の経営を図る			
次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		計画的に事業推進の継続						現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減				0千円		
		定格的に予算執行の継続					予算反映額 (概 算)	
今後の改善点		関係機関・地元農家と連携の上、事業を継続していく必要がある						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	農地整備進捗状況	目標				5	11	18
		実績				5		
		達成率	%			100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	地域の農業生産基盤の整備を図る			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	生産性の向上安定した農業の経営を図る			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	生産性の向上安定した農業の経営を図る			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		計画的に事業推進の継続						現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減				予算反映額 (概 算)	0千円	
		定格的に予算執行の継続						
今後の改善点		関係機関・地元農家と連携の上、事業を継続していく必要がある						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	農地整備進捗状況	目標	%		97	100		
		実績	%	80	97	100		
		達成率	%	100	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	地域の農業生産基盤の整備を図る			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	農業生産性の向上安定した農業の経営を図る			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	農業生産性の向上安定した農業の経営を図る			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ● 休止・廃止						評価結果
		事業完了						休止・廃止
	予算	○ 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ● 皆減						
						予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点								

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	FSC認証材を使用した製品開発個数（FSC認証トレードマーク使用製品数）	目標	個	4	4	4	4	4
		実績	個	7	4	3		
		達成率	%	175	100	75		
指標2	各種イベントにおける町産FSC認証材のPR実施回数	目標	回	5	5	5	5	5
		実績	回	4	5	4		
		達成率	%	80	100	80		
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	美幌町産FSC森林認証材を推進するためには、森林認証材を使用した製品開発が必要であり、妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	美幌町産FSC森林認証材の木製品への支援等取組みは、FSC森林認証の普及や認証材利用促進の発展に繋がるため有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	対象を美幌町産FSC森林認証材に絞ることで、一般材と差別化を図ることができ適正な経費となっている。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		引き続き、FSC森林認証材の取組を推進し、町内外への普及及び製品開発を行い地場産材利用促進事業を実施する。						
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減					現状維持	
利用推進及び認証製品の付加価値向上のために実施する。								
						予算反映額 （概 算）	0千円	
今後の改善点		FSC認証材のPRとなる新製品開発に向け、事業者との連携を強化する。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	地域材を利用し木材の地産地を推進するためには木材の付加価値向上と利用促進が必要であり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	町内住宅の住環境整備への視点等取組みは、美幌町産ＦＳＣ森林認証材の成長・発展に繋がるため有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	木材の高騰により、町産材活用促進事業補助金で価格差を埋めるには至っていない。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ● 休止・廃止			評価結果
		以下の理由から、令和7年度から、町産材活用促進事業補助金を廃止する。 ○FSC-FM認証グループから、美幌町森林組合が脱退していることから、住宅建築に利用する美幌町産FSC森林認証材の十分な量をFSC-CoC認証取得している町内工務工務店に供給で			
	予算	○ 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ● 皆減			
			予算反映額 (概 算)	△4,221千円	
今後の改善点					休止・廃止

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	活動回数	目標	回		10	5	5	5
		実績	回	5	5	8		
		達成率	%	50	50	160		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	森林所有者の高齢化のため林業後継者不足が進む現状では、本事業から手を引くことは出来ないため妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	林業グループの活動への支援は、林業後継者不足を解消することに繋がるため有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	林業グループ活動補助金を行うことで適正な経費となっている。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		現状維持のまま実施することが適当である。						現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状の計画で進めることが妥当である				予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		林業グループの活動支援の強化						

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	前年度新規就業者数	目標	人		4	5	5	5
		実績	人		1	1		
		達成率	%		25	20		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	森林の担い手不足は全国的な問題であり、町としても対策を講じる必要がある。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	担い手を確保するためには支援が必要となる。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	経費については適正である。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		現状維持のまま実施することが適当である。						現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減				予算反映額 (概 算)	0千円	
		現状の計画で進めることが適当である。						
今後の改善点		林業・製材業従事者の確保に向け、広報等により事業の周知を徹底していく。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	町内木質ペレットストーブ設置累計台数	目標	台	100	100	100	100	100
		実績	台	82	86	91		
		達成率	%	82	86	91		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	「低炭素な町づくり」及び「美幌町新エネルギービジョン」に基づく事業であり実施主体は町が妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	化石燃料の代替によるCO2排出削減への取組みは、地球温暖化防止の発展に繋がるため有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	木質ペレットストーブ購入補助金を行うことで適正な経費となっている。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		現状維持のまま実施することが適当である。						
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減				現状維持		
		現状の計画で進めることが適当である				予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		ペレットストーブの認知度向上を図り、制度周知を徹底していく。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	事業承継支援小規模事業者持続化補助金利用件数	目標	件	3	1	1	1	1
		実績	件	0	0	0		
		達成率	%	0	0	0		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	後継者不足が問題化され、美幌町の経済の維持・発展に必要な不可欠である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	後継者がいる早い段階で利用可能な制度であり、国補助への上乗せであるが、国補助のハードルが高いため内容検討する。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	事業承継の問題意識の啓発に繋がっている。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 継続して実施する					評価結果 現状維持	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 継続して実施する						
今後の改善点		事業承継の問題意識の啓発のため、引き続き継続する。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	地域経済の振興は重要な施策であり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	実績値からも有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	実績値からも有効である。

次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		引き続き実施する。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		現在の成果を維持するため。	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		引き続き、経営指導は個別相談を原則とし、経営改善に繋げていきたい。			

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	中心市街地の活性化は重要な施策であり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	空き店舗の活用につながるため有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	商工会議所と同じ補助率であり経費は適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		引き続き実施する。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		現在の成果を維持するため。	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点	起業家相談の際等に中心市街地への出店を推進していく。				

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		検討	財政負担や場所等を地域を含めて検討する必要がある			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		低い	検討中			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		低い	検討中			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ○ 現状維持 ● 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		財政負担や場所等を地域を含めて検討する						
	予算	○ 拡充 ○ 現状維持 ● 縮小 ○ 皆減						縮小
		検討中				予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		町が主体となった整備はいったん白紙となっている。 社会情勢や町財政の状況が変化した際に実施時期や場所等の検討を進める						

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	商店街の活性化は重要な施策であり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	町内での購買力が増しており有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	利用率からも十分な成果が出ており、適正な経費である。

次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		引き続き実施する。			
	予算	○ 拡充 ○ 現状維持 ● 縮小 ○ 皆減			改善
		現在の成果を維持するため。		予算反映額 (概 算)	
今後の改善点	各店舗の顧客満足度を高める工夫が必要。また、ポイントカードシステムの更新、加入店の拡充が課題となっている				

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	美幌峠における観光入込客数	目標	万人	70	70	70	70	70
		実績	万人	88.3	76.6	61.5		
		達成率	%	126.14	109.43	68.29		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	美幌峠の入込が減少する中、観光振興の方向性を明確に示すため、次期観光振興革新戦略ビジョンの策定に取り組むことは妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	美幌峠観光や広域連携イベントを通じて一定の誘客効果が得られており、目標達成に向けた手段と対象は適切である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	パンフレット更新等の費用を精査し、随時見直しを行っていることから、費用と成果のバランスは概ね適正である。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		次期観光振興革新戦略ビジョンの策定に取り組む						
	予算	○ 拡充 ○ 現状維持 ● 縮小 ○ 皆減					改善	
令和6年度に観光パンフレットの更新を完了したため、次年度は大幅な改訂を必要とせず、関連経費を縮小する。					予算反映額 (概算)	△11,521千円		
今後の改善点		美幌峠入込の減少を踏まえ、施策の見直しと新たな観光価値の創出を進める。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	観光物産協会・商工会議所との観光物産振興会議開催回数	目標	回	6	6	6	6	3
		実績	回	4	4	3		
		達成率	%	66.67	66.67	50		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	観光団体との連携は不可欠であり、町が支援することは妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	団体と連携した施策は成果を上げており、手段・対象は適切である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	一定のルールに基づき負担を設定しており、費用対効果は高い。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		観光物産協会は、平成31年度からJRの乗車券販売を開始し、サイクルツアーなど新規事業が展開されている。						
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減					現状維持	
地域おこし協力隊を新たに任用し、地域資源を活用した観光振興を図る。				予算反映額 (概 算)	0千円			
今後の改善点		引き続き各団体と連携し、観光革新戦略ビジョンを推進する。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町単独での誘客は限界があり、広域連携は妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	連携施策は成果を上げており、手段・対象は適切である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	共同実施で費用分担や情報発信効果が高まり、費用対効果は高い。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		既存の連携事業を継続しつつ、新たに周遊ルート造成や広域プロモーションを展開し、交流人口の増加を図る。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		広域での共同実施により費用分担を行い、単独負担の縮減を図る。	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		関係自治体や事業者間の役割分担を明確化し、情報共有や合意形成の仕組みを改善する。			

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(昇込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	ロマンチック街道白樺並木の剪定回数	目標	回数	1	1	1	2	2
		実績	回数	2	2	2		
		達成率	%	200	200	200		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	景観美化のために維持管理を町で行うことは妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	沿線住民から支障木の相談が寄せられており、枝払いでは対応できない白樺が増えてきている。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	1年に1回の枝払いは景観美化の為に必要である。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 白樺白樺の枝払いやの雑木を伐採し、景観美化を図る					評価結果 現状維持	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 白樺の枝払いやの雑木を伐採し、景観美化を図る				予算反映額 (概 算)		
今後の改善点		沿線に白樺以外の雑木が目立ってきており、景観のための伐採が必要である。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	検討	宿泊需要増に対応し誘致を進めることは妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	既存施設との公平性を考慮しつつ、需要に応じた誘致は有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	町外へ需要が流出しており、町内での経済効果を高めるため誘致は必要。

次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		新たな事業者より提案があった場合には協議する。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		必要に応じ予算措置を検討する。	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		町が必要とする宿泊施設（規模や設備）を精査する必要がある。			

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標 1	ツアー参加者数 (令和7年度より指標2へ移行)	目標		250	250	250		
		実績		134	194	310		
		達成率	%	53.6	77.6	124		
指標 2	屈斜路カルデラトレイル利用者数 (令和7年度から事業化・現地カウンター)	目標					500	500
		実績						
		達成率	%					
指標 3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	滞在型観光は波及効果が大きく、町が推進すべき施策として妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	トレイル整備や体験メニュー開発により滞在時間延長に成果が出ている。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	屈斜路カルデラトレイルの安全な利用促進を図るために要する費用については、利用者の安心確保と持続的な管理体制の観点から			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 現行の予算内で事業を実施する。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現行の予算内で事業を実施する。					予算反映額 (概 算)	0千円
今後の改善点		ツアー実施に伴う受入体制の構築が課題である。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	特産品開発等の支援件数	目標	件	4	4	4	3	4
		実績	件	2	1	3		
		達成率	%	50	25	75		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	美幌町の特産品開発のための支援であり妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	経費の助成を行うことにより、新たな特産品開発を促す制度であり、有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	補助対象経費の3/4で上限を50万円として定めており、他の自治体等と比較しても経費は妥当である。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		制度の周知方法を検討する。						現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減				0千円		
		現行の補助制度を維持する。					予算反映額 (概 算)	
今後の改善点		審査するにあたり、審査項目の見直しや過去に支援した事業者に対し事業効果を検証する必要がある。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	遠方来場者への直接PRの場であり、一定の支援は妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	町の支援により事業者の参加促進と販路拡大に効果が見られる。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	販売促進だけでなく町のPRにもつながり、費用対効果は適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		引き続き町内事業者の出展支援やイベント参加を促進し、地域製品の販路拡大と認知度向上を図る。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		従来どおりの経費水準を確保し、出展支援や運営補助に必要な範囲で支援する。	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点	事業者の継続的な販路拡大につなげる。				

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町道管理のため、道路管理者である町が実施すべきである。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	日々のパトロール等で発見した箇所を補修している。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	入札の実施により適正な費用である。

次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	☐ 拡充 ☒ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 休止・廃止			評価結果
		引き続きパトロール等で発見された補修箇所を確認し、必要に応じ実施する。			
	予算	☐ 拡充 ☒ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 皆減			現状維持
		補修箇所によって予算額の増減はあるものの、必要に応じ補修する。	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点	長寿命化を見据えた計画的な補修の実施				

令和6年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		橋梁・トンネル長寿命化事業		課・グループ名		建設課・都市整備グループ		
				評価者名		建設部長 遠國 求		
総合計画	基本目標	04 住みやすく、人が集まる基盤をつくるまちづくり		予算科目	款	08	土木費	
	施策(大)	01 道路網の整備			項	02	道路橋梁費	
	施策(中)	02 町道の整備			目	02	道路橋梁維持費	
	施策(小)	01 計画的な町道整備(道路附帯施設含む)・(橋梁)維持補			大事業	02	道路橋梁補修事業	
事業期間		終期末定 平成28年度～			中事業	01	橋梁・トンネル長寿命化	
要求区分		継続		町長重点政策		○		
根拠法令等		道路法				経費区分		投資的経費
事業概要		老朽化した道路橋について、補助事業を活用して、計画的に予防保全型修繕を実施することで、延命化と維持管理コストの縮減及び平準化を図る。 ※ 計画名：美幌町橋梁長寿命化修繕計画 (計画期間：R5～R14、計画策定：R4、点検：R3～R4) 橋梁数：107橋(うち修繕対象判定Ⅲ：30橋)						
事業目的		安全で安心な道路(橋)サービスの提供						
事業の対象		道路橋(利用者)						
実施結果・現状と課題		【実施結果】 点検結果により適切な補修方法を選択、補助事業を活用して、コスト削減を図りながら橋梁補修をすすめる。						
		【現状と課題】 構造により異なるが、耐用年数の目安である築後50年を経過する橋梁が17橋存在し、今後架け替え含めた、補修対象の道路橋の増加が見込まれること						
事業進捗度		2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況		進捗度3又は4の理由		-		左の具体的な内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和04年度決算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和06年度決算	令和07年度予算	令和08年度予算
事業費(千円)	96,123	29,678	50,160	44,583	50,457	63,057
国支出金	57,618	17,778	20,500	22,788	26,020	33,910
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	19,800	11,800	20,500	15,900	23,500	3,600
その他	73	0	0	0	0	0
一般財源	18,632	100	9,160	5,895	937	25,547
人件費(千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円)(人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費)(千円)	96,123	29,678	50,160	44,583	50,457	63,057

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	橋梁修繕	目標	橋	1	1	1	1	
		実績	橋	1	1	1		
		達成率	%	100	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	町道橋梁補修事業の実施は道路管理者（町）が行い、事前の点検結果により、適切な手法を選択し、実施している。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	橋梁長寿命化修繕計画により適切なストック点検のもと、橋梁補修事業実施で安全確保が図られる。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	財源は補助事業を活用しており、かつ予防保全型修繕による長期的な維持補修費の縮減と平準化が図られている。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 5年に1度の点検結果及び計画見直しに基づき、交通量や危険度など総合的に優先順位を判断し、事業を実施する。					評価結果	
		○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減					現状維持	
	予算	道路メンテナンス補助金（国交省補助金）、過疎ハード（起債）			予算反映額 （概 算）	0千円		
今後の改善点		将来を見据えた長寿命化と橋梁架け替えの判断						

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	町道整備延長	目標	m	225	478	968	1,609	
		実績	m	225	478	968		
		達成率	%	100	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	道路管理者（町）が行うべきものであり、道路の交通量・損傷状況等に応じて実施のタイミング等を判断し、実施している。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	路線の状況に応じた適切な工法（道路改良・オーバーレイ・歩道整備など）により実施している。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	道路交通量や損傷状況を加味した上で整備路線を決定していることや、積算は道単価を適用し決定していることから適正である。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		道路インフラは町民生活にとって必要であること、公共工事という役割からも事業費は一定規模必要であるため、現状維持とする。						
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減					現状維持	
		実施箇所によっては予算額の増減はあるものの、必要に応じて実施する。			予算反映額 (概 算)	0千円		
今後の改善点		技術職員の人材確保等による必要予算・事業費の確保、立地適正化計画策定後の道路含めたインフラ整備の優先順位・整備手法の決定						

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	道路管理者である町が実施すべきである。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	概ね通勤時間帯までに除雪を終えている。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	直営・民間と役割分担をし実施している。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		引き続き、降雪、堆雪状況に応じ除雪事業を実施する。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		降雪状況によって予算額の増減はあるものの、引き続き事業を実施する。	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点	直営及び民間を含めた更なる効果的な除雪体制の検討				

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	植え替え本数	目標	本			5	5	5
		実績	本			5		
		達成率	%			100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	公園管理者である町が整備することが妥当である			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	公園の管理状況を鑑みると適切である			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	苗木の植栽は直営でできないため適正である			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		引き続き古木や危険木の伐採状況により植え替え本数が増減するが実施していく						
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減					現状維持	
引き続き古木や危険木の伐採状況により植え替え本数が増減するが実施していく					予算反映額 (概 算)	0千円		
今後の改善点		根株の伐根を視野に事業を進める						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	住宅リフォーム助成件数	目標	件	90	100	100	100	100
		実績	件	93	117	105		
		達成率	%	103.33	117	105		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	安全で快適な住環境を確保し、環境負荷の低減及び地域経済の活性化を図る観点から、行政が主体となることが妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	住環境の整備と地域経済の活性化に貢献しているため有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		検討	住宅リフォーム促進補助金交付要綱に基づく改修費用が対象。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		住環境の向上と地域経済の活性化に寄与するものと考えており、令和5年度に制度内容の見直しを行った。						
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減					現状維持	
補助対象工事費の引下げや事業の再度利用を認めたことにより件数100件を見込み、1件あたりの補助金額は事業の過去実績から346千円として算出している。					予算反映額 (概 算)	0千円		
今後の改善点		需要予測を続け、制度内容の見直しについて検討を行う。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	住宅の耐震化を促進し、安全な住環境を確保する観点から、行政が主体となることが妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	耐震改修促進のために有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	住宅耐震改修補助金交付要綱に基づく改修費用が対象。

次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		現在まで実績はないが、美幌町耐震改修促進計画に基づき、住宅施策の一環ととらえ、令和5年度に制度内容の見直しを行ったことから現状維持が妥当と考える。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		耐震診断(1件)、耐震設計(1件)、耐震改修(1件)として算出している。		予算反映額 (概 算)	
今後の改善点		広報やホームページなどによる情報発信を行う。			

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	支援制度活用による除却棟数	目標	棟	8	8	10	12	12
		実績	棟	5	8	4		
		達成率	%	62.5	100	40		
指標2	支援制度活用による利活用棟数	目標	棟	2	1	1	1	1
		実績	棟	1	1	1		
		達成率	%	50	100	100		
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	少子高齢化や人口減少が進む現状において、行政が総合窓口として空き家対策に取り組むことは引き続き重要であり、妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	個人財産への介入には限界があるが、所有者への啓発や相談支援など、現状で可能な手段はおおむね実施されており、一定の成果			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		検討	除却への税投資に対して、固定資産税の減収と捉えたと、費用と成果のバランスを評価することは難しいため、検討。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 民間事業者や地域との連携強化、および補助制度の見直しにより、空き家の利活用・適正管理の促進を図る。					評価結果	
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 老朽危険空き家の除却をさらに進めるため、補助制度の上限額や補助率を引き上げ、所有者の費用負担を軽減することで、空き家の解消を加速させる。					拡充 予算反映額 (概 算) 4,130千円	
今後の改善点		危険空き家の解消に向けた段階的な対策及び所有者不明時の対応方法の検討。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	対象世帯が補助金申請を行った割合	目標	%	100	100	100	100	100
		実績	%	100	100	100		
		達成率	%	100	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	子育て支援が求められている中、今後とも継続させる必要があり、妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	対象となる全ての世帯へ補助がされており有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	対象経費を給食費に限定することで、効率性は高く経費も適正である。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		令和7年度についても継続して実施する。						
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 学校給食費単価の値上げにより、予算額の拡充が必要である。					現状維持	
		予算反映額 (概 算)		3,098千円				
今後の改善点		申請手続きの効率化						

令和6年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		外部講師活用事業		課・グループ名	学校教育課学校教育グループ			
				評価者名	教育部長 中尾 亘			
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり			予算科目	款	10	教育費
	施策(大)	01 幼稚園、学校教育の充実				項	01	教育総務費
	施策(中)	03 小中学校の教育内容の充実				目	03	教育振興費
	施策(小)	01 地域資源（自然、環境、人）を活用した学校教育の充実				大事業	02	学校教育振興事業
						中事業	03	外部講師活用事業
事業期間		終期末定						
要求区分		継続		町長重点政策		－		
根拠法令等						経費区分		政策的経費
事業概要		地域の協力のもと、水泳、スキー、スケート授業等において、外部講師によるグループでの個別指導を行い、効果的な授業内容の充実を図るとともに、博物館との連携による体験授業や「総合的な学習の時間」における児童生徒の興味関心に基づいた課題解決型の授業を進める。						
事業目的		地域資源（自然、環境、人）を活用した学校教育の充実を図る。						
事業の対象		児童・生徒						
実施結果・現状と課題		【実施結果】 学校から依頼のあった授業における外部講師について各種競技団体と連携を図り派遣を行った外、博物館学芸員と連携し体験授業に取組んだ。 ----- 【現状と課題】 外部講師のなり手不足と高齢化等に伴う人材確保が課題であり、各種競技によって継続が困難となる状況にある。						
事業進捗度		2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況		進捗度3又は4の理由		－		左の具体的な内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和04年度決算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和06年度決算	令和07年度予算	令和08年度予算
事業費 (千円)	482	377	766	519	731	731
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	337	500	500	500	0
一般財源	482	40	266	19	231	731
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	482	377	766	519	731	731

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	外部講師の派遣	目標	名	19	32	32	32	32
		実績	名	22	28	23		
		達成率	%	115.79	87.5	71.88		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	地域連携のもと、専門知識・技能を習得することが可能となり、妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	外部講師による指導は、児童生徒の成長、学校教育の充実につながるため、有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	経費は適正人数及び回数による負担金等となっており、適正な経費と考える。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		現状維持のまま実施することが適当である。						現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減				予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		指導者確保のため各関係団体へ積極的に働きかけを行い、安定した指導体制の確保に取り組む。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	部活動指導が可能な教職員が減少している中、生徒のスポーツ活動等の継続に繋がるため妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	拠点校方式や外部指導者の派遣等が生徒のスポーツ活動等の継続に繋がるため妥当である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	経費は部活動指導員等への報酬や保険料であり、地域との連携を図る上で適正である。

次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		引き続き、関係団体と人材の確保に努め、部活動の地域移行を推進する。 部活動（サッカー）の地域クラブへの移行の初年度となることから、円滑な移行に努める。			
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			拡充
		部活動（サッカー）の地域クラブへの移行に係る補助金を新設したことにより予算が拡充した。	予算反映額 （概 算）	1,640千円	
今後の改善点	地域クラブへの移行を段階的に進めていくにあたって関係団体や保護者等に対して説明会や意見交換等を行う機会を確保することで、地域クラブの移行へ向けた醸成を図っていく。				

令和6年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		「びほろ学」推進事業		課・グループ名		学校教育課・学校教育グループ	
				評価者名		教育部長 中尾 亘	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり			予算科目	款	XX
	施策(大)	01 幼稚園、学校教育の充実				項	XX
	施策(中)	03 小中学校の教育内容の充実				目	XX
	施策(小)	02 体験型の学習によるふるさと教育やキャリア教育の充実				大事業	XX
						中事業	00
事業期間		終期末定					
要求区分		継続		町長重点政策		○	
根拠法令等						経費区分	
						政策的経費	
事業概要		小中一貫教育を見据え、各学校において「ふるさと教育」「キャリア教育」の目的を共有・実践するとともに、小中連携を視野に入れたカリキュラムの見直しを行い、町の教育に特徴を出す。 また、地域の教育資源を活用した体験学習・探究活動の機会を拡大する。					
事業目的		特色のある学校づくりを推進するとともに、グローバル人材の育成やふるさと美幌への誇りや愛着を持った児童・生徒を育成する。					
事業の対象		児童・生徒					
実施結果・現状と課題		【実施結果】 中学校区連携会議において各小中学校の総合的な学習（探究）の指導内容について共有を図るとともに、地域資源等を活用した取組みについて議論を深めた。 【現状と課題】 各小中学校において地域資源等を活用した取組みを図っているものの、系統的な取組みまでに至っていないため、カリキュラムの見直しなどを行う必要がある。					
事業進捗度		2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況		進捗度3又は4の理由		- 左の具体的な内容	

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和04年度決算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和06年度決算	令和07年度予算	令和08年度予算
事業費 (千円)	0	0	0	0	0	0
国支出金	-	-	0	0	0	0
道支出金	-	-	0	0	0	0
地方債	-	-	0	0	0	0
その他	-	-	0	0	0	0
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	0	0	0	0	0	0

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標 1	地域の教育資源を活用した探究活動実施校数	目標	校			5	5	5
		実績	校			5		
		達成率	%			100		
指標 2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標 3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	小中一貫教育を見据え、教職員の連携や共同が必要不可欠なため、妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	特色ある学校づくりやグローバル人材の育成は、町外への波及効果が見込まれるため有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	経費は生じないため、適正と考える。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		現状維持のまま実施することが適当である。					現状維持	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持のまま実施することが適当である。			
					予算反映額 (概 算)	0千円		
今後の改善点		引き続き、町・学校・地域が連携して「びほろ学」の推進を図る。						

令和6年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		学校運営改善事業		課・グループ名	学校教育課学校教育グループ		
				評価者名	教育部長 中尾 亘		
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10 教育費	
	施策(大)	01 幼稚園、学校教育の充実			項	01 教育総務費	
	施策(中)	03 小中学校の教育内容の充実			目	03 教育振興費	
	施策(小)	04 地域と一体となった学校づくりの推進			大事業	02 学校教育振興事業	
事業期間		終期末定		中事業	04 学校運営改善事業		
要求区分		継続		町長重点政策 ○			
根拠法令等		学校教育法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律				経費区分	政策的経費
事業概要		学校は、教育活動やその他の学校運営について、地域の教育力を積極的に活用しながら「地域とともにある学校づくり」を推進する必要があることから、学校運営協議会制度を活用し、地域の教育力の向上を図る。 各学校運営協議会の開催を進めるとともに、地域の応援団や学校運営協議会間での連携会などにより小中連携を強化し、学校、地域、家庭の連携を深めていく。					
事業目的		「地域とともにある学校づくり」を推進する。 学校（教育）、地域（協育）、保護者（共育）による3つの教育ネットワークを構築する。					
事業の対象		学校運営協議会委員、地域住民、保護者、教職員					
実施結果		【実施結果】 学校運営協議会の開催などにより学校と地域と情報共有や委員の資質向上が図られた。					
現状と課題		【現状と課題】 協議会の意義や役割などが地域へ浸透すること、各学校における運営協議会間の連携体制などが課題である。また、活動の濃淡も見られることから、見直しが必要である。					
事業進捗度		2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況		進捗度3又は4の理由		左の具体的な内容	

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和04年度決算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和06年度決算	令和07年度予算	令和08年度予算
事業費 (千円)	393	412	1,260	449	1,075	1,075
国支出金	0	0	0	0	0	-
道支出金	0	0	0	0	0	-
地方債	0	0	0	0	0	-
その他	0	0	0	0	0	-
一般財源	393	412	1,260	449	1,075	1,075
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	393	412	1,260	449	1,075	1,075

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	学校運営協議会委員の委嘱	目標	名	53	54	50	50	50
		実績	名	54	48	50		
		達成率	%	101.89	88.89	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	学校と地域が目標を共有し、一定の権限を持って学校運営に参画するために、学校運営協議会委員を委嘱することは妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	美幌町の子どもを地域で育てる仕組みの構築や地域の力で児童生徒のさらなる成長が期待できることから、有効性は高い。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	経費は委員の出席報償と外部講師の保険料、活動経費であり、地域活動等を行っていく上で適正と考える。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		現状維持のまま実施することが適当である。						現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減				予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		学校運営協議会連携会において、各学校の取組みや課題の共有することで各協議会の課題解決や活性化を図る。						

令和6年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		少人数学級推進事業		課・グループ名		学校教育課・学校教育グループ	
				評価者名		教育部長 中尾 亘	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり			予算科目	款	10 教育費
	施策(大)	01 幼稚園、学校教育の充実				項	01 教育総務費
	施策(中)	03 小中学校の教育内容の充実				目	03 教育振興費
	施策(小)	09 少人数学級の推進				大事業	02 学校教育振興事業
						中事業	97 少人数学級推進事業
事業期間		終期末定		令和4年度～			
要求区分		新規		町長重点政策		○	
根拠法令等		学校教育法				経費区分 政策的経費	
事業概要		小学校におけるきめ細かな学習指導を行うことで学習意欲の向上を図るため、町独自に期限付教諭を配置し、町内小学校すべての学年において少人数（35人以下、1年生30人以下）学級の実現を図る。					
事業目的		児童の学力及び体力を向上させると共に、不登校やいじめなどの未然防止を図る。					
事業の対象		小学校の児童					
実施結果・現状と課題		【実施結果】 小学校第1年生・第2年生を対象とした少人数学級（30人以下）を実施することで、児童一人ひとりによりきめ細かな指導を行うことができた。 ----- 【現状と課題】 引続き、少人数によるきめ細かな教育支援を行い、学習環境を整えることが必要と考える。					
事業進捗度		2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況		進捗度3又は4の理由		- 左の具体的な内容	

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和04年度決算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和06年度決算	令和07年度予算	令和08年度予算
事業費 (千円)	4,892	6,104	12,975	14,219	7,286	7,286
国支出金	0	0	0	0	0	-
道支出金	0	0	0	0	0	-
地方債	0	0	0	0	0	-
その他	0	0	0	0	0	-
一般財源	4,892	6,104	12,975	14,219	7,286	7,286
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	4,892	6,104	12,975	14,219	7,286	7,286

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	町費負担教員（臨時教員）の配置	目標	名	1	1	2	1	1
		実績	名	1	1	2		
		達成率	%	100	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	きめ細かな学習環境を整え、基礎学力を定着させることにより、学力向上を目指すには妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	本事業は、児童の成長や学力向上につながるため、有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	経費は、人件費のみであり、削減の余地はないと考える。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		現状維持のまま実施することが適当である。						現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減				予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		子どもたちにきめ細かで質の高い教育を提供していくため、各学校と引き続き連携体制を確立していく。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

		令和04年度決算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和06年度決算	令和07年度予算	令和08年度予算
事業費	(千円)	888	936	1,501	224	1,509	1,509
国支出金		0	0	0	0	0	0
道支出金		0	0	0	0	0	0
地方債		0	0	0	0	0	0
その他		0	300	1,000	30	1,000	1,000
一般財源		888	636	501	194	509	509
人件費	(千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費	千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費)	(千円)	888	936	1,501	224	1,509	1,509

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	学校図書館の蔵書数	目標			29,080	28,880	28,880	28,880
		実績			22,663	23,013		
		達成率	%		77.93	79.68		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	文科省から学校図書館における書籍の整備充実等が求められているため、町が支援することは妥当と考える。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	書籍の整備充実を図るためにも適切な廃棄更新が必要であり有効性は高い。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	書籍の適切な廃棄更新を行うことで学校図書館の充実が図られることから効率性は高い。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		現状維持のまま実施することが適当である。						現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減				予算反映額 (概 算)	0千円	
		現状維持のまま実施することが適当である。						
今後の改善点		蔵書数が増加していくよう今後も適切な書籍の適切な更新等を進めていく。						

令和6年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		中学校図書充実事業		課・グループ名	学校教育課・総務グループ			
				評価者名	教育部長 中尾 亘			
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり			予算科目	款	10	教育費
	施策(大)	01 幼稚園、学校教育の充実				項	03	中学校費
	施策(中)	03 小中学校の教育内容の充実				目	02	教育振興費
	施策(小)	11 読書活動の推進				大事業	01	中学校教材整備事業
						中事業	03	中学校図書充実事業
事業期間		単年度						
要求区分		継続		町長重点政策		○		
根拠法令等								
事業概要		新学習指導要領において、学校図書館・学校図書の利用についての記述があり、また、「学校図書館ガイドライン」においても学校図書の充実が求められている状況である。このことから、学校図書館法に基づき、学校教育において欠くことのできない学校図書及び学校図書館機能の充実を図る。						
事業目的		学校図書館の充実により、児童生徒の読書活動を推進し、読書の習慣化及び学力の向上に繋げる。						
事業の対象		中学校全生徒						
実施結果		【実施結果】 学校司書による各中学校への巡回や計画的な図書の整備等により、学校図書館の充実が図られた。						
現状と課題		【現状と課題】 蔵書数が増加していくよう引き続き書籍の更新等を進めていく必要がある。						
事業進捗度		2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況		進捗度3又は4の理由		- 左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和04年度決算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和06年度決算	令和07年度予算	令和08年度予算
事業費 (千円)	380	972	1,643	443	1,408	1,408
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	215	1,000	20	1,000	1,000
一般財源	380	757	643	423	408	408
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	380	972	1,643	443	1,408	1,408

(見込値)

3. 評価

指標名		単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	学校図書館の蔵書数	目標		21,440	20,880	20,880	20,880
		実績		12,557	12,907		
		達成率	%	58.57	61.82		
指標2		目標					
		実績					
		達成率	%				
指標3		目標					
		実績					
		達成率	%				
項目		評価の視点		評価	理由		
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	文科省から学校図書館における書籍の整備充実等が求められているため、町が支援することは妥当と考える。		
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	書籍の整備充実を図るためにも適切な廃棄更新が必要であり有効性は高い。		
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	書籍の適切な廃棄更新を行うことで学校図書の充実が図られることから効率性は高い。		
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果
		現状維持のまま実施することが適当である。					現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		蔵書数が増加していくよう今後も書籍の適切な更新等を進めていく。					

令和6年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		課・グループ名	学校教育課総務グループ	
小中一貫教育推進事業		評価者名	教育部長 中尾 亘	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	款	XX
	施策(大)	01 幼稚園、学校教育の充実	項	XX
	施策(中)	05 高等学校教育の充実	目	XX
	施策(小)	01 間口確保や教育施設・設備の充実	大事業	XX
事業期間	単年度	中事業	00	小中一貫教育推進事業
要求区分	継続 町長重点政策 ○			
根拠法令等				経費区分 政策的経費
事業概要	教育環境の向上と9年間を見通した連続性のある教育活動の推進を目的とした小中一貫教育の導入に向け必要な手立てを図る。			
事業目的	児童生徒の教育環境の向上			
事業の対象	児童生徒、保護者、地域住民			
実施結果・現状と課題	【実施結果】 小中一貫教育の導入に向け、「美幌町小中一貫教育推進ビジョン」「美幌町義務教育学校整備基本方針」を策定した。 【現状と課題】 義務教育学校の開校に向けた基本構想の策定にスピード感を持って取り組む必要がある。			
事業進捗度	2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和04年度決算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和06年度決算	令和07年度予算	令和08年度予算
事業費 (千円)	0	298	500	140	0	0
国支出金	-	-	0	-	0	-
道支出金	-	-	0	-	0	-
地方債	-	-	0	-	0	-
その他	-	-	0	-	0	-
一般財源	0	298	500	140	0	0
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	0	298	500	140	0	0

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	検討会議等の実施	目標	回	5	30	30	50	50
		実績	回	1	20	50		
		達成率	%	20	66.67	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	近年の少子化を背景に、児童生徒にとってより良い教育環境を提供していくため、小中一貫教育の導入が必要と考える。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	道内外先進校の視察や検討会議等により十分な調査研究・協議を行うことが有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	先進校の視察により現場の実態を直接確認することができ、課題点等の整理のための費用対効果は高いと考える。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		義務教育学校整備に係る基本構想の策定について、学校関係者や保護者、地域住民等への十分な説明・協議を行いながら、スピード感を持って取り組む。					拡充	
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			予算反映額 (概 算)	11,781千円		
今後の改善点		小中一貫教育推進及び義務教育学校整備に係る課題点等の整理、関係者との十分な協議や調整が必要である。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	教育を受ける機会の確保及び美幌高校の生徒確保のために町が支援することは、地域を担う人材育成の観点から妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	奨学金については条例第10条に基づく選考を行っており、美幌高校支援については事業計画等の審査を行っており適切である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	奨学金については教育を受ける機会の確保、美幌高校支援については生徒確保に繋がることから効果は高い。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		美幌高校魅力化コーディネーターによる入学者確保に向けた取組み等を強化する。 奨学金制度の活用を推進するため、制度の周知を図る。			
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			
		美幌高校魅力化コーディネーターによる入学者確保に向けた取組み等を強化する。 奨学金制度の活用を推進するため、制度の周知を図る	予算反映額 (概 算)	3,944千円	
今後の改善点		各種支援策の効果検証を十分に行い、限られた予算の中で生徒確保のための効果的な支援内容を検討する必要がある。			

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	自ら育てた小麦を活用し給食として提供する事業であり、効果的な食育推進であることから妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	農業科の特色を生かす事業でもあり、魅力ある高校づくりとして有効性は高い。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	小中学校の給食提供日に合わせて実施しているため効率的であり、商品のPRにもなるため成果は高い。

次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		現状維持のまま実施することが適当である。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		現予算額を維持することが適当である。		予算反映額 (概 算)	
今後の改善点		原材料の収穫、製造を考慮すると提供回数が年1回が妥当ではあるが、さらに地元農産物や加工品も加えた新たな献立の提供なども今後検討が必要である。			

令和6年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		課・グループ名	社会教育課社会教育グループ
多文化共生推進事業		評価者名	教育部長 中尾 亘
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	款 10 教育費
	施策(大)	02 生涯学習の充実	項 04 社会教育費
	施策(中)	03 生涯学習活動の促進	目 02 社会教育振興費
	施策(小)	06 外国人に対する学習機会の提供	大 03 成人教育事業
	事業期間	終期未定 令和2年度～	中 03 多文化共生推進事業
要求区分		継続 町長重点政策 ○	
根拠法令等		経費区分	政策的経費
事業概要		町内に在住する外国人技能実習生等に日本文化や教養を学ぶ機会を提供（日本文化体験）するとともに事業所及び町民への外国人理解の機会提供を行い相互交流の機会を創出する。（やさしいにほんご講座） 事業開始年度 令和2年度 対象事業所 22事業所（令和7年7月末日現在） 【町長重点施策】	
事業目的		外国人技能実習生が単に労働だけではなく、美幌町で日本文化や教養に触れてもらい、美幌町に愛着を持って就労・滞在できるような生涯学習の機会を提供するとともに、共生に向けた外国人理解を進める。	
事業の対象		町内在住の外国人及び事業所を主とした一般町民	
実施結果・現状と課題		【実施結果】 町内外外国人技能実習生及び町民を対象とした「やさしい日本語講座」を4回開催。また日本文化体験としてさらに活用しやすいよう新たにパンフレットを作成し、町民を講師とした内容を複数回開催した。 【現状と課題】 取組としては開催できたものの、今後、持続可能な取組とするべく町民の参画などを考える必要がある。	
事業進捗度		2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度3又は4の理由 - 左の具体的な内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和04年度決算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和06年度決算	令和07年度予算	令和08年度予算
事業費 (千円)	27	115	401	307	588	588
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	27	0	300	300	300	300
一般財源	0	115	101	7	288	288
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	27	115	401	307	588	588

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	実施回数	目標	事業	4	3	4	8	8
		実績	事業	2	3	4		
		達成率	%	50	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	外国人人材は町内においても急激に増加傾向にあり、外国人に対する生活支援及び町民への理解促進の面において必要性が高く妥当			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	事業を通して事業所における肯定的な評価及び地域住民との交流機会の拡大に繋がっており有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	生活・交流支援の充実に寄与するとともに、外国人人材を雇用する事業所への支援体制にも繋がっているため妥当である。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		加速的に外国人人材が増加していることから、外国人支援及び町民への理解促進にかかるサポーターを養成する。					拡充	
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減						
		サポーター養成に係る講師招聘及び日本文化体験の需要が高まっていることにより予算を拡充した。				予算反映額 (概 算)	187千円	
今後の改善点		外国人住民の増加により、町民が不安や戸惑いを感じる場面が増えると考えられることから、サポーターの育成を進め、地域での交流や情報発信を担う人材を育成し、さらなる多文化共生を推進する。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	配布人数	目標	人	295	295	260	260	260
		実績	人	298	245	262		
		達成率	%	101.01	83.05	100.77		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	法的には外部委託も可能だが、公共性に鑑み現段階では考えていない。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	事業終了後のアンケート等からも好評であり、子どもの読書習慣づくりを支える事業として有効である。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	支援ボランティアや関係団体の協力を得て実施している。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		現状維持のまま実施することが適当。						現状維持
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減				予算反映額 (概 算)	0千円	
		現状維持のまま実施することが適当。						
今後の改善点		現在の活動について職員だけでは対応が困難なため、ボランティアの支援が必要不可欠だが、ボランティアの後継者不足が大きな課題となっているため、引き続き人材確保を図っていく。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

	令和04年度決算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和06年度決算	令和07年度予算	令和08年度予算
事業費 (千円)	8,444	8,903	11,376	10,643	9,850	10,400
国支出金	0	0	0	0	0	-
道支出金	0	0	0	0	0	-
地方債	0	0	0	0	0	-
その他	2,000	3,500	5,470	5,100	4,000	-
一般財源	6,444	5,403	5,906	5,543	5,850	10,400
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	8,444	8,903	11,376	10,643	9,850	10,400

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	ふるさとの自然、歴史、芸術等の貴重さ・面白さを、多くの町民に理解してもらい、興味を抱いてもらうためには、不可欠。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	講座教室等の充実を図ることは、目標達成のため、非常に有効な手段である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	類似事業を整理（統合・廃止）したりすることで、経費の効率化を図っている。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		現状維持のまま実施することが妥当である。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		現状維持のまま実施することが妥当である。		予算反映額 (概 算)	
今後の改善点		講座教室は今後も充実させる。また、教育旅行や企業研修の受け入れなどを充実させるため、課や組織を越えて連携を図っていく必要がある。			

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度
指標1	本事業を活用し自らの夢を叶えるための具体的実践をした子どもの数	目標	人			3	3	3
		実績	人			3		
		達成率	%			100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	将来の夢に挑戦する子どもたちを直接支援できる取組であり、町の人材育成方針にも合致しており、妥当である。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	夢へのチャレンジに向けた具体的な計画を立て、目標を達成したことは支援内容が適切であるとともに、地域に波及しているため			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	成果は本人のみならず、活動報告を通じて学校や地域住民にも波及効果が及んでいることを勘案すると現行の経費は妥当と評価で			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止						評価結果
		現状のまま維持することが適当である。						
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減						現状維持
		現状のまま維持することが適当である。				予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点		採択者に対する支援効果は高い一方で、落選者へのフォローが十分でないと考えられるため、意欲を低下させない実施の方法やフォローアップ体制の充実を図る。						

1. 事業内容

2. 年度別事業費

(単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	今後の美幌町の文化を支える青少年の育成の取り組みとして役をはたしている。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	補助金を支出し、コンクールに出場する機会を応援する現状の形が適当である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	現状として、補助の対象項目・対象者について適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容	事業	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果	
		目標件数に達していないが、派遣人数は増加している。今後より効果的に補助を活用いただけるよう、継続的に周知を図る必要があるとともに、申請希望を受けた時点で丁寧な説明も続けて取り組んでいく。			拡充	
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減				
		宿泊・交通費の高騰並びに、補助を希望する方々を広めていく目的より拡充を必要とする。		予算反映額 (概 算)		
今後の改善点	SNS等も活用した周知を行い、利用を促進していく。					

1. 事業内容

2. 年度別事業費 (単位：千円)

(見込値)

3. 評価

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	スポーツ活動を普及・振興を図るためには、各種スポーツ団体との連携・支援が不可欠であり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	スポーツ団体の育成支援は、青少年の健全育成とスポーツ活動の活性化に繋がることから有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	町(教育委員会)及びスポーツ団体と連携し行うことにより適正な経費となっている。

次年度の 取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止			評価結果
		スポーツ団体の活動を維持継続するため補助事業を継続する。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			現状維持
		現状どおりに事業を推進するための予算を維持する。	予算反映額 (概 算)	0千円	
今後の改善点	指導者資格取得補助事業の活用拡大				

令和6年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		未来のアスリート応援事業		課・グループ名		スポーツ振興課スポーツ振興グループ		
				評価者名		教育部長 中尾 亘		
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10	教育費	
	施策(大)	05 スポーツの振興			項	05	保健体育費	
	施策(中)	03 スポーツ活動の促進			目	01	保健体育総務費	
	施策(小)	02 競技スポーツの技術力向上			大事業	03	未来のアスリート応援事	
					中事業	01	未来のアスリート応援事	
事業期間		終期末定						
要求区分		継続		町長重点政策		○		
根拠法令等						経費区分		政策的経費
事業概要		本町の更なるスポーツ振興のため、頑張る未来のアスリートを応援することにより、地域愛の醸成や町民満足度の向上に寄与するとともに、スポーツ競技への意欲と各個の競技力を向上させていく。						
事業目的		競技力の向上及びスポーツ振興。						
事業の対象		町民						
実施結果		【実施結果】 全国・全道レベルで活動する選手や指導者に対して、経済的負担の軽減を図ることができた。						
現状と課題		【現状と課題】 全国・全道大会等派遣補助は、高水準で目標値をクリアしているが、育成強化奨励金補助については、昨年に続き目標値をクリアできていない。						
事業進捗度		2 予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況		進捗度3又は4の理由		- 左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	令和04年度決算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和06年度決算	令和07年度予算	令和08年度予算
事業費 (千円)	6,750	7,291	7,000	8,279	8,500	8,500
国支出金	0	0	0	0	0	-
道支出金	0	0	0	0	0	-
地方債	0	0	0	0	0	-
その他	920	750	3,600	4,095	6,700	-
一般財源	5,830	6,541	3,400	4,184	1,800	8,500
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	6,750	7,291	7,000	8,279	8,500	8,500

(見込値)

3. 評価

指標名		単位	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	
指標1	全国・全道大会等派遣補助団体数	目標	25	25	25	25	25	
		実績	34	36	30			
		達成率	%	136	144	120		
指標2	育成強化奨励金補助件数	目標	19	19	19	19	19	
		実績	人	20	9	10		
		達成率	%	105.26	47.37	52.63		
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目		評価の視点		評価	理由			
妥当性		目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	未来のアスリートを経済的な側面から支援する必要がある。			
有効性		目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	経済的な側面から支援することにより、競技への意欲と競技力の向上に繋がる。			
効率性		費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	町が行うことにより、公平で適正な経費となる。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止					評価結果	
		未来のアスリートを育成するための経済的な支援を継続する。					現状維持	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減			予算反映額 (概 算)	0千円		
今後の改善点		強化指定区分等の見直しを図るため、美幌町育成強化選手奨励金交付要綱を改正する。						